

日曜學校教案

加藤直士著

東京 警醒社書店

64

62

特

021089-001-8

特18-748

日曜學校教案(少年少女科教案)

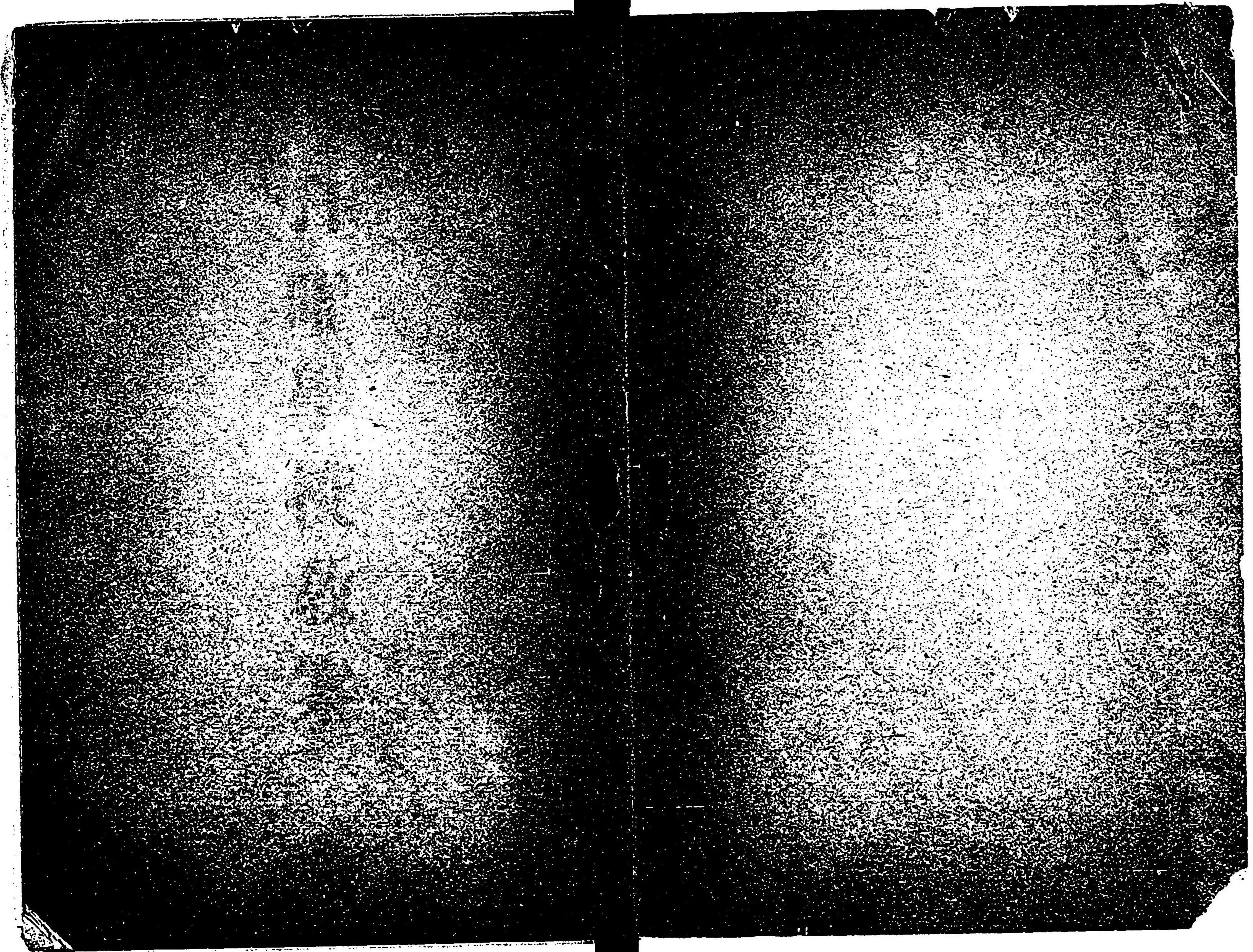
加藤 直士/著

1冊(上123)

M43, 44

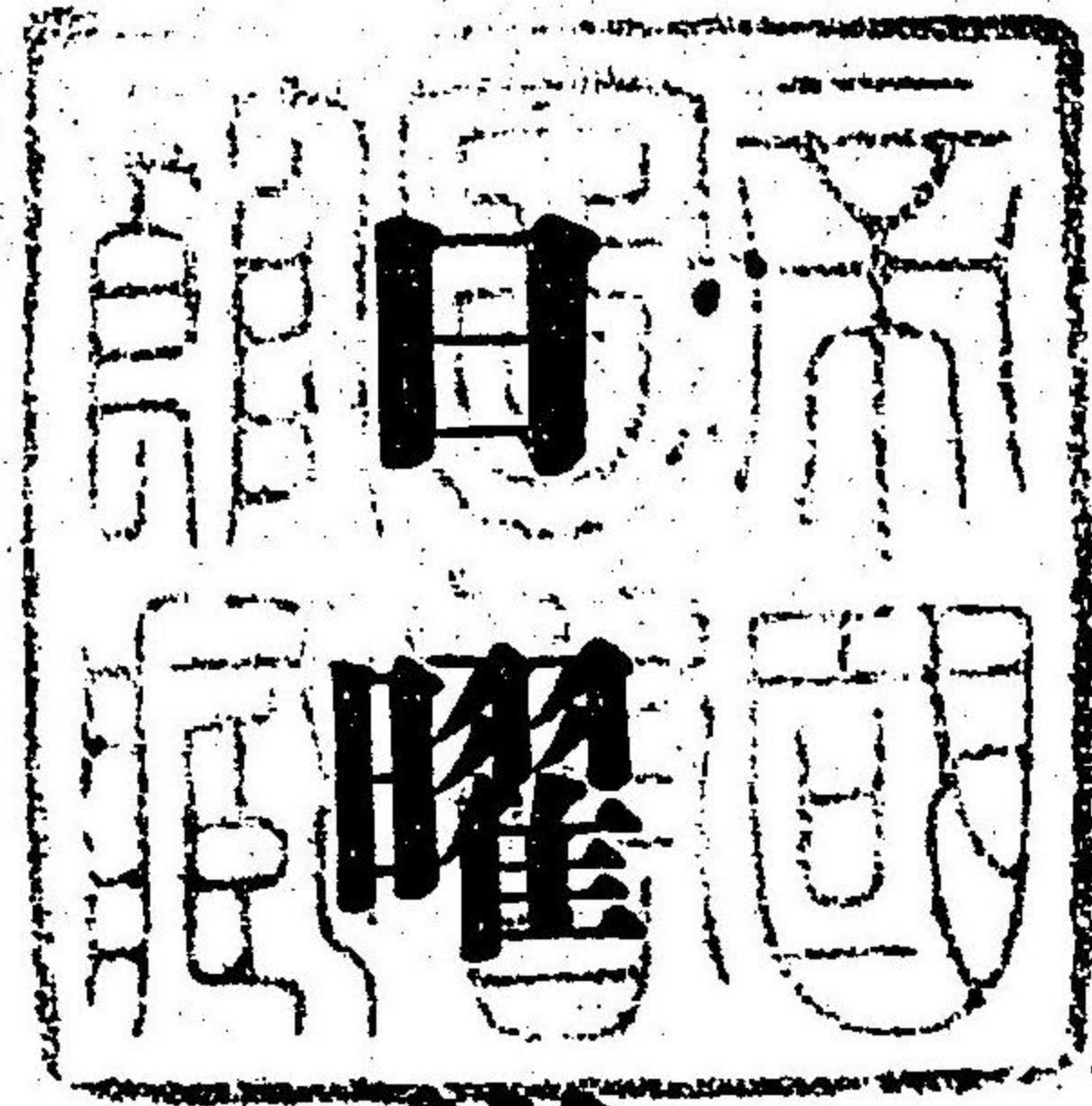
ABI-0949





特18

748



學校教案

明治
43.12.8
丙寅

序

我國に於ける日曜學校は元來基督教會と共に歐米の宣教師によりて輸入せられたるものなれば、決して近時に起りたるものに非ず。然れども從來は之を男女の宣教師若しくは女學校の生徒等に一任し、牧師傳道師にして誠實之が經營に當りたるもの甚だ稀れなり。而して日本日曜學校協會の組織を見たる僅かに四年前の事にして、爾來日曜學校事業の爲め力を用ゆる者漸く多きを加へ、教科書其他日曜學校に關する出版物益々多く出づると雖も、其多數は尙ほ試験時代に屬する者たるを免れずと云ふべし。要するに我國の日曜學校の事業たる

尙ほ幼稚の有様にして、萬事試験時代にあり云ふも不可なかるべし。

斯る時期に際し教科書なり教案なり多くの出版物の出づるは固より吾人の歓迎する所なり。加藤直士君は關西に於ける最大の教會たる大阪教會日曜學校々長として實際日曜學校の教育に従事せらるゝ一朝一夕に非ず、今回萬國日曜學校學科編纂委員の編纂に關する學級的學科教案の一に基づき我國兒童の實際に鑑み自己教育の實驗によれる所の説明を以て「日曜學校少年少女科教案」なるものを編纂して之を出版せられんとす、吾人何ぞ大に之を歓迎せざるを得ん。此書の出版を見るに當り余は喜で推薦の辭を其卷首に掲ぐ。

日本日曜學校協會長

小崎弘道識

明治四十三年十月下旬

序

「聖國を臨らせ給へ」とは基督を信する凡ての者の造次にも
顛沛にも天父に熱禱して措かざる所にして、此神國建設の聖
業を成就せんが爲めに種々なる方法を講じ、各方面より盡瘁
努力しつゝあるが中に就きて、兒童の宗教々育を目的とする
日曜學校の事業を以て教會の盡すべき最大急務の一なりと認
め、之が爲めに世界的の大運動をさへ惹き起すに至れるは、
輓近に於ける歐米基督教界の趨勢なり。

我國に於ても近年頻りに日曜學校事業の肝要なる所以を認め
各教會競ふて其改善發達を期して努力しつゝあると同時に、

斯業に關係せる人々の間に頻りに叫ばるゝ所の聲は、「我に良き教師を與へよ」「我に良教科書を授けよ」と云ふ痛切なる要求なるが如し。蓋し日曜學校の改善進歩は良教師なくしては到底望みがたく、良教師ありと雖も良教科書なくしては到底有効なる教育をなすこと能はさればなり。而して良教師は之を得ること極めて容易ならず、故に良教科書の必要は益切迫を告ぐるに至れり。

是に於てか曩に我日本日曜學校協會は教師用並びに生徒用の各種の教科書を作り、今又教友加藤直士君は日曜學校生徒の大多數を占むる少年少女の組に應用するの目的を以て、新案の一教科書を編纂せられ、之を其主幹する基督教世界誌に連

載して世の好評を博されたるが、今教師の便を計りて更に之を一冊に纏めて新たに出版せらる。本書の内容は斯道大家の著書を參酌し最近の級別教科書的方式を採用し、加ふるに自家多年の實地經驗に基づき、少年少女の智識腦力に適當すべく、同君獨特の麗妙の筆を以て平易簡明にもせられし者なれば、是によりて我國日曜學校の事業を裨益し其進歩に貢獻する所必ず尠少ならざるべきを信ず。余や日夜斯道の發展を念こする者、今此書を見て斯道の爲め感謝に堪へず、茲に聊か謝意を表し以て序に代ふ。

日本メソヂスト教會日曜學校
總務局幹事

明治四十三年十月

三戸吉太郎識

はしがき

一何れの日曜學校でも一番困つた問題は適當な教科書の少ないことである。日本日曜學校協會の編纂にかゝる諸學課も至極結構であります。あれで満足しない人々も随分澤山のやうであります。さう云ふ教師諸君の爲めに其缺けたる所を補つて教授上の御手傳をしたいといふのが、本書を編んだ主意であります。

一此教案は昨年から今年にかけて萬國日曜學校協會の教科書委員の手に成つた新編『級別萬國教科書』(The Pilgrim Graded Sunday School Lessons International Course)の少年少女科第一學年教師用の部を土臺にして、之に編者自身の實驗から來た考へを附け加へて、成る可く日本の兒童に適するやう日本化したるものであります。

一故に大體の仕組みは新編級別萬國教科書に據つて居りますけれども、一學課

の内容は時として全く變改されて、別けても教話の如きは全部編者の新案に成つたものも少くありません。是等は皆な如何にかして日本の日曜學校生徒に適したものにしたいと云ふ望みから起つたに過ぎないのであります。

一萬國日曜學校協會の級別法は左の如くなつてゐます。

幼稚科 (滿四、五歲)

初等科 (滿六、七、八歲)

少年少女科 (滿九、十、十一、十二歲)

中等科 (滿十三、十四、十五、十六歲)

青年科 (滿十七、十八、十九、二十歲)

大人科 (滿二十一歲以上)

然るに日本日曜學校協會では幼稚科、初等科、中等科、高等科の四科に分けられましたから、此少年少女科 (Junior class) は丁度日本の中等科に該當することになります。故に此教案を『基督教世界』に連載しました時は「中等

科 (十一歲前後) 教案』と題したのであります。けれども中等科と云ふ名は日本の教育制度に照らして見ても餘り適當ではありません、寧ろ日曜學校生徒の大多數を占めてゐる滿九歲より滿十二歲位の子供は之を少年少女科と呼んだ方が適當のやうに考へられます。

一因つて此書を少年少女科教案と名づけましたが、此教案を用ゆべき生徒の年齢は先づ十歲十一歲前後と御承知を願つて置きます。日曜學校毎に夫々組の名は違ひませうが、滿九歲より滿十二歲までの生徒の組々には此教案によつて適宜に教授することが出来ると思ひます。

一明年一月の第一の日曜日から此教案を用ゐて教授を試みていたいただきたいので、こゝには取り敢へず一月より六月までの半年分を出版しました。目下『基督教世界』に連載中の下半年分は完結次第明春出版して、後ちには一冊に纏める積りであります。何分毎週の新聞に載つてくるのは教授上甚だ不便だから是非書物にして年内に出して呉れと云ふ御希望が段々ありますので、斯く

はしる

は取計つたのであります。
一從來の教科書で満足してゐる日曜學校又は教師諸君に取つては此教案は一片の参考書たるに過ぎますまい。併しもし満足しない學校又は教師諸君があるとするれば、兎も角も一年間此教案を試みて貰ひたいのが編者の熱心な希望であります。そして改正の御希望や御心附きの個處を示して下されば尙更らの幸福であります。我邦日曜學校事業の改善發達を圖らるゝ日本日曜學校協會でも我邦に種々たる教案が編纂されて教授の材料がそれだけ豊富になることは多々益す喜ばれることゝ信じます。

明治四十三年十月十五日長女の満十一歳誕生日に當りて

加藤直士誌

日曜學校少年少女科教案(前半期)

目次

第一課	天地の創造……………	(一月第一日曜)	一頁
第二課	エデンの園……………	(一月第二日曜)	六
第三課	初ての罪……………	(一月第三日曜)	一一
第四課	カインとアベル……………	(一月第四日曜)	一八
第五課	徳習……………	(一月第五日曜)	二四
第六課	ノアの方舟……………	(二月第一日曜)	二九
第七課	洪水と虹……………	(二月第二日曜)	三四
第八課	アブラムの召……………	(二月第三日曜)	三八

目次

目次

第九課 アブラムの寛大とロトの撰び(二月第四日曜)……………四二
第十課 アブラム、ロトを救ふ……………(三月第一日曜)……………四七
第十一課 ソドム、ゴモラの亡び……………(三月第二日曜)……………五二
第十二課 復習……………(三月第三日曜)……………五六
第十三課 荒野に於けるイシマエル……………(三月第四日曜)……………六〇
第十四課 アブラハム、イサクを捧ぐ……………(四月第一日曜)……………六四
第十五課 井邊のリベカ……………(四月第二日曜)……………六九
第十六課 エサウ長子の權を賣る……………(四月第三日曜)……………七三
第十七課 ヤコブの天の梯子の幻……………(四月第四日曜)……………七八
第十八課 ヤコブ、エサウの再會……………(四月第五日曜)……………八二
第十九課 復習……………(五月第一日曜)……………八六
第二十課 ヨセフ埃及に賣らる……………(五月第二日曜)……………九〇
第二十一課 ヨセフと酒人と膳夫……………(五月第三日曜)……………九六

第二十二課 獄中より宮殿へ……………(五月第四日曜)……………一〇〇
第二十三課 ヨセフの兄弟埃及に行く……………(六月第一日曜)……………一〇五
第二十四課 イスラエルの全家埃及に移る(六月第二日曜)……………一一〇
第二十五課 復習……………(六月第三日曜)……………一二四
第二十六課 モーセの幼時……………(六月第四日曜)……………一二九

目次

日曜學校教案

少年少女科教案

(自一月至六月半年間分)

第一課

【標題】 天地の創造。

【教材】 創世記一章一節より二章三節まで。

【朗讀】 創世記一章一節より五節まで。

【金言】 元始に神天地を創造たまへり (創一ノ一)

【引照】 尼九ノ六。約百一二ノ七―一〇。二六ノ七―一四。詩一九ノ一―六。

三三ノ六―九。七四ノ一六―一七。九〇ノ四―五。一〇四ノ一―三五。耶五

一ノ二五―一六。摩四ノ二三。約一ノ一―三。黙四ノ一一。

第一課 天地の創造

〔教訓〕 神は萬物の創造主にして世界の義しき支配者なることを知らしむ。

〔準備〕 此學課を教ふる教師の最も大切なる準備は、本文の天地創造の物語を熟讀玩味して、更に之を引照の他の聖書の箇所と對照して、天地の創造者としての神の觀念を充分明らかにするに在り、殊に少年科の生徒は神の大能と云ふ思想を最も多く歡迎する年頃にあるものなれば、天地創造の理論よりも寧ろ事實に、神の性質よりも寧ろ神の能力に重きを置くを可とす。

此學課を初むる前に、人が祈禱をなしつゝある繪畫(例へばミレーの有名な「アンゼラス」の畫の如き、又は日出を拜しつゝある人の圖の如き者)を生徒に示すを可とす。

〔教話〕 日はだん／＼西にかたむいて遠い村の教會の塔から靜かな清らかな鐘の音がおちこちに響いてをります。野に出で、働いてゐる男も女も、此鐘の音を聞くと同時に、手にとる鋤をおいて、其場に立つたまゝ嚴そかに夕への祈りをさへげます。之れは外國の繪でありますが、日本でも支那でも世界中こんな

國でも人間の居る所には、必ず何等かの宮とか寺とかがあつて、人は朝夕或は太陽とか月とか或は天道様とか佛様とかいふ者に向つて頭をさげて祈禱をさへげてゐます。日本の菅原道真公は九州に島流しにされた時に、筑紫の天拜山といふ山に登つて天を拜したとあります。近江聖人の中江藤樹先生は毎朝自分のお部屋の中に端坐して皇天上帝に禱つたさうです。是れは皆な人といふ者は自分の心の中に何かを拜ますにをられない者だといふ事を示してゐます。只だ世界の人は自分が拜むべきものは何であるかを知らないで、或は木や石や金で造つた物を拜んだり、日や月を拜んだりするのであります。それは何故かといへば彼等はまた此の大切な書物(聖書を示して)のあることを知らない爲めに、其の拜むべき神様はどんな御方であるかと云ふことを知らないからであります。此聖書と云ふ貴とい書物のうちには吾々の天の父であります神様について詳しく教へてあります。もし世界の人が此書物の一番初めに書いてある天地創造の御話を聞きましたなら、初めて本當に拜むべき神様の事が判然とわかつて

第一課 天地の創造

来て、ごんなに喜ぶか知れませんが、それで私共は只今創世記の第一章から勉強をすることに致しませう。昔々の太古、神様の外には天も地も木も草も鳥も獣も何もかもちつとも無い時がありました。其時にはどこもこゝも只だ眞暗な黒闇でした。日も月も星も世界も無かつたからです。其時に只だ一人神様だけは天にお在になりました。御自分のかたちにして神の子供として人間を造らうと御考へになりました。そこで先づ人間の住むべき住家を造らねばなりませんから、第一に光あれと言ひ給ひました。忽ち光ができました。神は光を畫と名づけ闇を夜と名づけ給ひました。次に神の大能によつて、私共の住む此の大きな地球が天の空間に運轉するやうになりましたが、まだガスや霧のやうなものが一杯地球の上をつゝんでゐて何が何やら分らないやうでしたから、神様は天空の上の水と大空の下の水を別けて、雲と海とを別々にして雲のある所を天と名づけ、海のある所を地と名づけ給ひました。(かくして順次聖書によつて六日間の神の仕業を語りて創二ノ三迄に及ぶべし)。皆さん何と面白いお話ではあ

りませんか。天も地も萬の物も皆な私共の天の父の御手の業であるとは、何と嬉しいことではありませんか。詩篇十九篇に斯うかいてあります「諸々の天は神の榮光を顯はし蒼穹はそのみ手のわざを示す」只そればかりではありません、此の大能の方のある偉い、神様は私共の祈りを一々聞いて下さいます。先きに見ました祈りの繪は即ちそれを書いたのであります。それで今日の學課は神は萬物の創造主で、又私共の祈りを聽きたまふ天の父様であると云ふ事でありま

第一課 天地の創造

第二課

〔課題〕 エデンの園。

〔教材〕 創世記二章四節より廿五節まで。

〔朗讀〕 創世記二章十五節より廿五節まで。

〔金言〕 エホバ神其人を取て彼をエデンの園に置き之を理め之を守らしめ給へり(創二ノ十五)

〔引照〕 箴十四ノ二十三。十八ノ九。二十二ノ二十九。傳九ノ十。十一ノ六。

羅十二ノ十一。撒前四ノ十一、十二。

〔教訓〕 人は只だ樂しむ爲めに造られたる者にあらず、仕事は神の命じ給ふ所にして、勞働は最も神聖なるものなることを生徒に吹き込むを以て此學課の目的とす。

〔準備〕 是まで舊約の話をする時に、仕事は人の先祖が罪を犯したる罰として

額に汗して働かねばならぬ様になれりなど教へたるは大なる謬見なり。然れば此學課に於て教師先づ自ら勞働の神聖なるを切に感じ、其積りにて教材を熟讀玩味して教壇に臨むべし。エデンの園を理め之を守ることの如何に多忙なりしか、彼等が神と働きを共にせる様の如何に貴きかを見よ。若しも生徒の中に只だ遊び暮して何の仕事をもせぬ事が最も幸福なる生活なるかの如き誤れる考を持つものあらば、充分左様なる誤りを正す準備を心につくるべし。

〔教話〕 先づエデンの園のお話をしませう。それは誰でも未だ見た事のないほど奇麗な花園でした。樹や草や花や實やどんなものでも無いものはありませんでした。小川はチャラ／＼と其中に流れてゐる、獸類は嬉しうに遊んでをり、鳥は樹々の梢に飛び廻つて、朝から晩まで美はしい歌をうたつてをります。神様が人間に理めさせ給ふた園はこの様な善い處でありました。(教師は曾て見し公園又は樹林の風景を土臺にして凡ての想像をもつてエデンの園を生徒の前に描出すべし) けれども聖書に書いてある通り、神様は決して只だ奇麗な花園の

中で何もせず遊んでをる爲めにアダムをそこに置きなさいませんでした。園を理めて之を守る爲めには随分澤山の仕事をせねばなりません、植物の生長の有様やら動物の發育の模様やらを始終注意して適當な世話をせねばならず、又一々適當な名前を多くの動植物に付ける杯は中々の仕事です。之れは神様がアダムに與へ給ふた第一の幸福であります。なせなれば人は仕事が無いほど憐れな不幸なものはありませんからです。適當な勞働をするのは人に取つて何より大なる恩惠であります。どのやうな高貴の御方でも幸福な日を送らうとするには必ず或規則正しい仕事をせねばなりません。英國の前女皇ビクトリア陛下はよく麻をつむいでおいでになつたさうです。日本の天皇陛下でも皇后陛下でも下々の者の考へるやうな御暇は決してありません。戦争の時などは申すに及ばず、平和の時でも大は政治の事から小は慈善の事まで始終大御心を用ゐられてをられます。(高き位地にある人々の仕事の如何に多きかを尙ほ他の例を以て話すべし)。

借てアダムは此等の仕事をすることによつて至極幸福でありました。併し彼は鳥や獸と友達になるとは出来ません。禽獸草木はどのやうに美しく云つても神様の姿にかたざられて造られては居りません、アダムは交りたいと思つても其等の物には心がありません、それでアダムは大層淋しく感じました。神様はそこでアダムの爲めにエバを造りまして其友達とせられました。アダムはエバを愛し二人して心を合せて神様の命じ給ふた事を行ひ神様の禁じ給ふた事を行はないうで、何時も従順な勤勉な子供として、神様の御心を喜ばせ奉つてをりました。(生徒をしてアダム、エバが朝起きてより夜眠るまでの間に美はしき樂園の中で如何に楽しく甲斐々々しく立働きたつゝあるかを朝晝晩にわけて想像せしめよ) 忙がしい一日の勞苦の後ちに二人は神の祝福を受けて夕べの涼しい風に吹かれながら天の父様と親しく御話をしながら、樹の葉の間からさめく星を眺めながら安き眠りにつくのであります。神の子供なるアダム、エバは斯様にして働きの中に幸福を得たのであります。人は仕事をする爲めに造られた

第三課 エデンの園

もので、勉強と修業と労働とは人の受け得る最大の幸福であります。神様の御命令に従つて働くところ何處でもエデンの花園であります。

第三課

【課題】 初めの罪。

【教材】 創世記三章一節より廿四節まで。

【朗讀】 創世記三章一節より十五節まで。

【金言】 エホバ言ひたまふ人我に見られざる様に密なる處に身を匿し得るか

(耶二十三ノ二十四)。

【引照】 詩百三十九ノ七一十二。箴二十八ノ一十三。耶二ノ十七、十九。羅

五ノ十二、十九。哥前十五ノ二十一、二十二。

【教訓】 罪とは天父に對する不孝を云ひ此不孝の罪を犯す者は如何に怖るべき

不幸に陥るかを悟らしむるを以て此學課の目的とす。

【準備】 十歳前後の兒童は必ず會つて其父母又は長者の命に背きて、其爲めに

不安不幸を感じ、自分を愛し呉れる人々より隠れんと欲する如き、厭ふべき

第三課 初めの罪

経験を有せざるもの一人もあらざるべし。又教師自らも其幼少の時の事を回顧せば、誰しも同様の苦き経験を想起せざる者はなかるべし。それ故に今日の學課は教師に取りても生徒に取りても、悉く自己の實際に訴へて最も適切に教へらるべきものにて、此アダムエバの最初の罪の物語は成るべく之を生徒の日常生活に觸るゝ様教ふるを要す。此の嚴肅なる學課を生徒の腦裡に深く刻み込まん爲めには、教師は宜しく特に祈禱を以て之れが教授の準備をなすべきなり。

〔教話〕 先週學びましたエデンの園は一名パラダイスと申します、それは樂園といふ意味で世界中本當に一番楽しい處であるからです。併しアダムエバが此の花園の中にて、楽しい嬉しい喜ばしい日を過したのは、決して其處に美しい花が咲いたり、可愛らしい鳥が歌つたり、又は奇麗な小川が流れてゐたりするからばかりではありません。二人の楽しい日を送つたのは天の父様の御命令を一々柔順に守つて、何事でもその御心に背くやうなことを致しませんで、全く孝行な子供として神様に事へまつたからであります。子供として親に孝

行をする程楽しい事はありません、其言ひ附を守つてさへをれば決して間違はありません。自分を一番愛して呉れるのは父母で、其父母の言ふことは自分に取つて何より一番善い事であるに違ひありません。アダムエバがエデンの園で楽しく暮してゐた譯は、彼等が天の父様に孝行であつて神様から何時も愛されてゐたからであります。

併し諸君、悲しい一日が参りまして何もかも全く變つてしまひました。エデンの園は元の様に美しくあります、しかしアダムエバは最早少とも樂しさを感じませんでした。楽しい仕事は元通りに二人の前にあります、しかし彼等はもうしてもそれに手をつける氣になりませんでした。天の父様に會ふことは少しも嬉しくなくなりました。その優しい愛の御顔は二人の目には何となく怖ろしく見えだしました。さうして天の父様が例の通り花園に御出でになりました時、彼等は何處かに自分の身を隠さうといたしました。これは一體どうした譯でありませう、何が此様な變化をきたらしたのでありませう。その譯は如斯なんで

す。

一日神様は二人に向つて斯く言はれました「子供達、此花園にある凡ての美しい果實は皆なお前達が食べてもよろしい、しかし茲にたつた一本決して食べてはならぬ樹の實がある。もし之を食へたら大變です。其譯は今お前たちに分るまいけれども、御父さんの言ふことは間違がないんだから、決して此の言附に背いてはなりませんぞ」と、斯う呉々も教へられました。そこで二人は畏まつて決して食へは致しませんと約束致しました。併し一日エバが此の美しい禁じられた樹の側を通つてゐる時に、ふと一疋の蛇が何か話をしかけるのを聞きました。エバは蛇の姿を見ませんが其聲を聞いたのです。蛇はかう申しました「エバさん、あなた方は本當に不仕合者ですね、お父様が何時でも何か禁じてばかりゐて、さぞ窮屈なことでせう。それ御覽なさい、此花園の中で一番美しい此木の實を食へてならないと仰つたでせう。エバは初めは蛇の言ふとに氣を留めませんでした。なせなれば天の父様はあのやうに親切

でのやうに自分達を可愛がつて下さるのですもの、何でそんな意地の悪い事をなさる者ですか。蛇の云ふ事は皆な偽りだと思ひました。併し目をあげて其樹の果を見ますと如何にも甘まさうです。何故神様は此果だけを禁じなさつたでせう。禁じなくともよまらうなものではありませんか。こう考へてゐると、蛇は又小さな聲で「エバさん、成るほど神様は此果を食へてならんと仰やいましたが、見てはならんと言はれないでせう、一寸御覽なさいよ、まあ何と美しいでせう。此色を御覽、さうして此の香りを小しかいで御覽、どんなに美味いでせうね。誰れも見てゐません、一口位はたべても構ふものですか……」。エバは到頭いざなはれて先づ樹の果を眺め、それから觸りそれから匂ひを嗅いで、しまひに一口食へました。そこでエバは自分だけ食へてはいけないと思つてアダムにも食へさせやうとして勧めました。アダムも終に誘はれて食へました。二人はかくして罪を犯しましたが其時から大層怖わくなりました。彼等は自分が悪事をしたことを知りまして、彼等の良心はひどく之を咎めます。二人は急いで

第三課 初ての罪

藪の中に隠れて、見つからぬやう息をこらして身震してゐました。しかし彼等は天の父様の目から隠れることはできません。すぐに隠れ場處が知れまして、神様は悲しい御聲でお尋ねになりました「何故お前たちは今日われより隠れるか」二人は周章へて色々な申譯をしましたが終に包みきれません。吾が禁じた樹の果を食べたらうと神様から問はれると、アダムは先づ答へました「ハイ、併しエバが私に食べさせたのです」エバは頭を垂れたまゝ「そして私に食べさせたのは蛇です」と申しました。偕て皆様此蛇と云ふのは何も眞實の蛇ではありませんでせう。エバは其姿を見ないで唯だ其聲を聞いた丈けです。蛇はエバの心の中にある悪心でありました。人の悪心は何時も斯いふ風に罪を犯させます「一寸御覽なさい、唯だ見る丈けなら構はないよ」「一寸一口食へてごらん、誰れも見えてゐないから」そして一度罪を犯すと人にも犯させたくなり、露はれて責められると人に罪をかぶせたくなる。アダムはエバに、エバは蛇にかこつけました。併し神は其様な辯解は聞きたまひません。二人はエデンの樂園から

追ひ出されました。世の中の凡ての悲しい事や不幸な事や患難辛苦と云ふものは、此の罪の結果として此世に生れできました。何と悲しいお話ではありませんか。人間はごうしたら再び天の父様に許して戴くことが出来ませうか、私共は追々此事を學びませう。

(舊約の物語を如何に自由にも伽嘶風に語り得るかの実例として此教話を比較的詳しく書きたり、教師諸君之を參考として他の教話をも試みられよ)

第三課 初ての罪

第四課

〔課題〕 カインとアベル。

〔教材〕 創世記四章一節より廿六節まで。

〔朗讀〕 創世記四章三節より十五節まで。

〔金言〕 愛は寛忍をなし又人の益を圖るなり。愛は妬みす誇らず非禮を行はず

(哥前十三章四節)

〔引照〕 ヨブ記十一ノ十四。羅六ノ十二、十六。西三ノ十二、十四。雅三ノ十

四。五ノ九。

〔教訓〕 妬みの如何ばかり賤しむべきものなるか又其結果の如何に怖るべきものなるかを知らしむるを以て此學課の目的とす。

〔準備〕 妬みは比較的早き幼時より少年男女の心に入り込み易き邪念なり。他益の幸福を妬み其の成功を妬み、朋友が失敗すると「善い氣味だ」と思ふが

如き、最も卑劣なる心情にして、品性陶冶の上に於て此上もなき妨害なりとす。故に茲には特に一課を設けて出來得る支け生徒の嫉妬心を除き去らんとす。すなかり、教師は其心して此日課を教へよ。

〔教話〕 アダムとエバの子供にカインとアベルと云ふ二人の兄弟が生まれました。二人は初めから仲の悪い兄弟ではありませんでしたが、兄のカインの方は少し意地の悪い根性の曲つた質で弟のアベルの方は大層お人よしの快活な性質の子でありましたので、お父さんやお母さんも自然カインよりもアベルの方を可愛がるおひよやうな譯で、何時の間にか二人の仲は元のやうに善く無くなりましました。それも子供の時は別段の事もありませんでしたが、追々成長して二人が大人になつて銘々の仕事をして暮すやうになつた時に、カインの心に子供の時から妬みの心が段々強くなりまして弟のアベルの繁昌するのを見て非常に心に不愉快を感じるやうになり、終にはアベルが不幸になるやうになつたら、嗚ぞいゝ氣味だらうなぞ、心の奥に飛んでもない悪い考へをもつやうになり

ました。
 扱てカインは百姓の仕事をして毎日田や畑を耕やして穀物や野菜をこることに勉に骨折りました。アベルは牧畜家になつて牛や羊を飼つて之を蕃殖することに勉強しました。百姓が雨にも風にも毎日田畑に出で、額に汗して働くのに比べて見ると牧畜家が牛や羊を連れて野山をかけまはつて居るのは如何にも氣樂で骨が折れないやうに見えます。カインは時々アベルの事を考へて何故自分ばかりが斯う難儀をするのであらうと不平を起したりしました。其上其國の土地や氣候が農業よりも牧畜の方に餘計適してゐた爲めせう、アベルの方は段々繁昌して牛や羊が澤山殖えて行くけれども、カインの方は田畑は思ふやうな收穫も得られませんでした。(昔の人は神様に供物をして受納られたらそれが繁昌のしるしであつて、もし其供物が受け納れられないと繁昌しない證據だと思つたのです、供物の事は詳しく説明する必要はありません) さうですからカインは益すアベルを妬むやうになつて、仕舞には憎くて堪まらない様になりました。或

日二人は一緒に野原を歩いて居りましたが、アベルはカインの心にどのやうな怖ろしい思ひがあるかも知りません。例の快活な關子で自分の家畜の澤山殖えて段々財産が多くなつてくる事などを有りのまゝに話しをいたしました。それを聞いてカインは急に腹が立つて、平常の嫉妬心がむか／＼と燃へあがつて來てもうたまりません。ソコテ路傍に落ちてゐた木の棒かなんぞを拾ひあげて、いきなりアベルの横面をひどく打ちなぐりました。アベルはあつとつて地に倒れましたが、まさか一打ちで死んでしまふだらうとは思ひませんから、カインは其儘向ふの方に歩いて行きました。今にアベルが起き上つて追つかけて來るだらうと思つて、跡をふり向いて見ましたが一向起きてくる様子もありません。少し心配になつてきたので引きかへしてアベルの倒れてゐる處にいつて見ると、こは如何にアベルは血まみれになつて其場に死んで居ります。カインは急に怖ろしくなりました。神様の御聲が心の中に聞へてゐます「カインよお前の弟アベルは今何處にゐるか」。

皆様カインは初めからアベルを殺す積りではありませんでしたらう。只だ平常から妬んでをつたので急に憎らしくなつて打擲つたのでせう。それで神様がカインの良心に向つて『お前はアベルをどうしたか』とお尋ねになります。初めのうちは『私はアベルの番人でありませんが知らません』など云つて自分の氣をまぎらしてゐましたが、だん／＼自分のした事の怖ろしい事に氣がついて来て、もはや堪らなくなつてまゐりました。丁度自分の殺した弟の血が地から叫んでゐるやうに聞へました。それはカインの本心が自分を責め立てる聲であります。カインは最早や自分も助からないといふ覺悟をしました。斯う恐ろしい罪を犯したのですから、神様はさつと自分を亡ぼしてしまひにならざると思つたのです。けれども神様は憐れみ深い天の父様でありますから、すなはちカインを亡ぼしてしまひなさいません。自分の悪い事を懺悔して改めやうとするものには、さつ／＼までも改める丈の時間をお與へになります。カインは此時から色々患難辛苦をして其罪の罰を受けて一生苦しみました。其子孫に至

つて再び神様に従ふものが出来ました。

皆様かういふ怖ろしい事になりましたのも、皆な始めは人の善事を妬むと云ふ一念から起つたのです。世の中に妬むといふ心ほど悪い事はありません。妬みから怒りとなり、怒りから憎みとなり、憎みから終に人を殺すやうな大罪を犯すやうになります。もしあなた方にチヨットでも友達や兄弟を妬む心があるならば、只今直様それを取りのけるやうになさいませ、それが何より大切な神様の教へであります。

第五課

〔課題〕 復習。

〔教材〕 創世記一章より四章まで。

〔朗讀〕 創一ノ一。創二ノ十五。創三ノ八。創四ノ十。

〔準備〕 教師は其受持生徒の人数だけの厚紙カードを作るべし（方三寸位にて

裏の字が表より透き見えぬ位の厚さの白紙を用ゆべし）而して左に掲ぐる如き

文句を各カードの表と裏とに假名又は振假名付にて記入せよ。（假りに十五名の

生徒として左の十五枚を作るべし）

第一カード。（表）吾等の勉強しつゝある書物は何と名づくるや。（裏）聖書（又は

は舊約全書）

第二カード。（表）聖書の第一巻は何と名づくるや。（裏）創世記（創世記と異様に書かし

むるも可なり）

第三カード。（表）創世記は何を教ふる書なるか。（裏）神が萬物を創りたる事を教ふる書物です。

第四カード。（表）創世記一章一節を問ふ。（裏）『元始に神天地を創造たまへり』。

第五カード。（表）神とは何のやうな御方ですか。（裏）神は萬物の創造主で私

共人間の天の父です。

第六カード。（表）エデンの園とは如何なる處なるか、又此處に住める二人の名

を問ふ。（裏）神が人間を住ませて下さつた最も美しい花園で、二人の名は

アダムとエバです。

第七カード。（表）アダムの仕事は何なりしか、聖書の句を以て答へよ。（裏）『エ

ホバ神其人を取りてエデンの園に置き之を理め之を守らしめ給へり。』

第八カード。（表）神は二人に何を禁じたまひしか。（裏）凡ての木の実を食へて

もよろしいが、只一つの實は食へてならぬ。

第九カード。（表）人間は何をして初めて神にぞむきしや。（裏）エバが蛇にさそ

はれて食へてならぬ木の實を食へた事。

第十カード。(表)初めて罪ををかせし後二人は何をなせしか。(裏)彼等恐れて神より隠れました。

第十一カード。(表)神に問はれし時二人は如何に申わけせしか。(裏)エバは蛇が勧めたからと云ひ、アダムはエバが勧めたからと云つて、池にかこつびました。

第十二カード。(表)エバを誘つた蛇とは何の事なりや。(裏)エバの心の中せぬる悪心です。

第十三カード。(表)アダムエバの生んだ二人の兄弟の名前。(裏)兄はカイン弟はアベル。

第十四カード。(表)兄弟の仕事と性質。(裏)カインは農夫で根性わるく、アベルは牧羊者でお人よしでした。

第十五カード。(表)カインがアベルを殺したわけを話せ。(裏)カインはアベル

を妬んで棒でうち殺しました。

此他にも簡単なる問答澤山あれば、教師は随意に生徒の數に應じて適當なる文句のカードを作るべし。

〔教授法〕 此等のカードの表を向けて各生に分配し裏面を見ぬ様に命じて、順番に第一カードより先づ表面の問を讀ましめ、次に之に答へしめるなり。もし正答を與へ得たる時は、裏面を開けて一應朗讀せしめ、而して後其カードは其生徒の所有に歸せしむ。もし答へ得ざる時は其カードは次の席にある生徒に與ふ。斯くして次の生徒が正答を與へ得たる時は、其カードを所有するのみならず、先きに配布されたるカードの問を讀み上げ且つ之に答へしむると前の如し。而してもし之れをも答へ得たる時は二枚とも其生徒の所有にして、答へ得ざる分は次の生徒の手に移つるなり。全級かくして一周り済みて尙時間あらば、カードを取り集め再び之を切り交せて分配し、前の如く競争的に試演せしむ。而して最後にカードは之を教師の手に回收して後日の用に供すべし。

第五課 復習

尙茲に注意すべきは、人數丈のカードの間のみにては、四日曜の學課の復習として不充分なることは是なり。故に教師はカード問答の中間に、時々全級生に向つて問題を出し、舉手法又は指名によりて答へしむること普通の前週學課復習の時の如くすべし。

第六課

〔課題〕 ノアの方舟。

〔教材〕 創世記六章より七章五節まで。

〔朗讀〕 創六ノ五、九、十四、十七、十八。創七ノ五。

〔金言〕 ノア、エホバの凡て己に命じたまひし如くなせり。(創七ノ五)

〔引照〕 詩一〇三ノ一七、一八。箴一ノ三三、一九ノ一六。耶一八ノ七一、一〇。

結三三ノ一四、一六。太二四ノ三五、三九。彼後二ノ四、五。默二二ノ一四。

〔教訓〕 神の命に柔順に服従するは、人間最大の義務にして、又尤も高尚なる行爲なる事を知らしめ生徒をして善惡の戦に於て斷然善に就き惡を避くるの決心を爲さしむるを以て此學課の目的とす。

〔準備〕 先週の日曜日にて於て畧ぼ此迄の學課の復習は出來たれども、今日の日課に關係ある部分として以下の點を今一應復習せしむべく、適當なる問答の

仕方を考案すべし。(一)エデンの園に於けるアダム、エバの樂しき生活は何處より來りしや。曰く神の命に柔順に服従せしが故なり。(二)何故に彼等は自分等を愛し給ふ天の父より隠れんとするに至りしや。曰く惡念を起して神の禁じ給ひし樹の實を食ひ初めて神に背きしが故なり。(三)何故にカインはアベルを殺すが如き大罪を犯したるか。曰くアベルは神に柔順なりしが故に惠まれしも、カインは其心邪しにして神に叛きし故に神の惠みを受け得ざりしを以て、妬みてアベルを打ち殺したる也。(四)然らば人間の罪とは如何なるものにて又如何にして蔓延せしや。曰く罪とは神の命に背く事なり。アダム、エバは第一に神の命に背きてエデンを追はれ、其子カインは神に背きて妬みの爲めにアベルを殺し、斯くて人間は段々に罪惡を犯して凡ての人間に背く様になりたる也。

【教話】 世界に人間の數は段々に殖えましたが、それと共に一旦神に背いた人間の惡心は次第に増長しまして、終には地球上の人間が皆な仕方の無いやうな

惡人即ち罪惡の子となつて了ひました。誰れも彼れも神に背いて不孝の子供となり、何時も天の父の御心を痛めることになりましたから、神様は人間の爲めに大層悲しみを給ひまして、已むを得ずさういふ罪惡に汚された人間を滅ぼして、新しく人間を造り變へやうと思召すやうになりました。

譬へて云へば一家の總領息子が飛んでもない極惡人となつたら、父は已むを得ず之を勘當して次男三男の中から新規に世嗣を仕立てるやうなものであります。神は情け深い父様であるけれども又非常に義しい御方であるから、不義罪惡の子を其儘に見のがし給ふことは出来ません。ソコデ大洪水を以て世界中の罪人を残らず滅ぼし給ふ決心をなさいました。只だ此時に一人の義しい人が居りました、其名はノアと申しました。此人は聖書に「ノアは義しき人にして其世の完全者なりき、ノア神と偕に歩めり」と書いてある程の善人でございまして。世界中の人は皆な神に背きましたが、たつた一人ノアだけは神に従つて義しい日を送りましたから非常に神に愛せられました。ソコデ神は此ノアを新し

第六課 ノアの方舟

い人間の先祖にする爲めに、ノアと其家族丈けを殘して、他の人間を大洪水で一遍に滅ぼさうと決心なさいました。神はノアに命じて松の木、杉の木を以て大きな方舟を造らせ、其方舟の中にノアの一家族と、それから地の獸、空の鳥、海の魚など、凡ての生物の一偶づゝを入れさせました。

皆様考へて御覽なさい、此様に大きな舟を造るには中々の日數がかゝりませう。それでノアはまだ洪水が些も起らない時分から、野原の様な處に先づ大仕事けの足場を造つて、それから段々に材木を運んで、其大きな方舟を造りかけました。世間の人々は之を見て何様に笑つたであらませう、ノアは何を馬鹿な真似をしてそのやうな無用物を造るのであらう、雨の一滴も降りはせぬのに、そんな物は何の役に立つ物か、多分ノアは氣が狂つたのであらうなど、嘲りました。其時ノアは此等の人々に向つて何を話して聞かせたであらませう。ノアは人々が罪を犯した罰で、今に大洪水で滅ぼされるに相違ないから、今のうちに罪を悔いて善心に立ちかへつて、自分たちと一緒に此方舟の中に這入るやう、一生懸命に働かせるに相違ありません。けれども誰れ一人之を聞入る者はありませんでした。廣い世界に神の命に従つて洪水の備へをした者はノアの外に一人もなく、他の人々は銘々思ひ／＼の事をして、飲んだり食つたり踊つたり騒いだりして、益々神の命に背いて罪を犯してばかりをりました。偕て洪水はどのやうにして起りましたか、それは次の日曜に學びませう。

第六課 ノアの方舟

第七課

〔課題〕 洪水と虹。

〔教材〕 創世記六章六節より九章十七節まで。

〔朗讀〕 創八章一節より十一節まで。及び創九章十二節より十四節まで。

〔金言〕 我わが虹を雲の中に起さん是我と世との間の契約の徴也(創九ノ十三)

〔引照〕 賽五四ノ九、十。耶三三ノ十九—廿六。

〔教訓〕 神は悪人を罰して之を滅せども、義しき子等を永久に恵み給ふ約束を

立て給へることを生徒に知らしめ、神の約束は恵みに在り、人の義務は服従

に在ることを深く心に留めしむるを以て此學課の目的とす。

〔教話〕 ノアは神の仰せに従つてまだ少しも雨が降らない時から一生懸命に方

舟を造りましたが、世間の人々は皆な笑つてノアの説教を少しも耳に入れませ

んでした。所が二月の十七日と云ふ日になつてから天の戸が開けたやうに大雨

が四十日四十夜の間降りつゞきました。大洪水が忽ち全地を掩はひまして水は

段々高くなつて終には天下の高山も皆な水にひたされて見えなくなりまして。

皆さん洪水の話を聞いたことがありませんか。(教師の實地見聞せる所に從ひ洪

水の慘状を語るも可) 今まで笑つてゐた人々は家も鉢も皆な流されて泣き叫び

ながら一人も残らず亡ぼされて仕舞ひました。只だノアの一族とノアが方舟

の中に入れた一偶宛の禽獸虫類丈けが助かつたのであります。方舟は永い間只

一つ大海原に漂ひまして目に見える者は雲と水との外に何物もありません。七

月十七日となつて方舟はアララテ山と云ふ高山の頂きに止まりました。水が段

々減つて来て十月の初めには山々の頂きも現はれて來ました。そこでノアは何

の位水が減いたかを試めす爲に、先づ一羽の鴉を放してやりましたが鴉は水の

涸れるまで往つたり來たりしてゐました。次には又鴿を放してやりますと初め

は鴿が留まる所を見付け得ないで歸つて來ましたが、又七日經つて放してやる

と今度は鴿が橄欖の新葉を口に啣へて歸つて來ましたので、水が大分減つて土

が現はれたことが分りました。(茲にコロンブスが米大陸發見の航海中何時までたつても陸が見えないので水夫等がコロンブスを殺して船を引き還さうと企てたが間もなく青い木の枝が流れて來たのと、陸に近く住む鳥が船の方に飛んで來たのを見て、愈々陸が近いと知つたと云ふ彼の勇壯な話を挿んでもよろしい)それから追々水が減退まして翌年の二月廿七日丁度洪水が初まつてから一年振りで初めて地の面は全く燥きましたので、ノアは方舟から出で、地に住みました。凡ての昆虫禽獸も方舟から出で、世界中の人間も生物も全く新たになつたのであります。

そこで神様は此の人間と新しい約束を結び給ひました、それは人間が神の御命令を守つて柔順に其御心に服従しなへすれば、決して之を亡ぼし給ふやうなことをなさらないと云ふ御約束であります。聖書には神が此約束の徴として雲の中に綺麗な虹を現はして御自分の愛を示されたを書いてあります。皆様虹を御存知でせう。虹は一天拭ふが如き晴天には出ません、又全く雲で掩はれて

ゐる空にも出ません、日光と雲とがどちらもある時に虹は美はしく其七色の弓形を現はすのであります。雨天の後に虹を見るほど愉快なことはありません、虹は望みを現はします。神の前に罪を犯した人間は亡ぼされて義しいノアの一族が遺りましたのは丁度大雨や洪水の後に美しい虹が輝いたのと同じであります。それで皆様も虹を見る度に毎に今日の日課の金言を思ひ出して下さい。「我々が虹を雲の中に起さん是れ我と世との間の契約の徴なり」

此教案を使用する一讀者より金言の文句が時に餘り長く又六かし過ぎる事の注意わけし
も記者は生徒の暗誦力の大なるを信する故必ずしも其の然らざるを思ふなり、只だ教師
にして充分に金言の意味を説き明かすを努めば十歳前後の生徒は容易に此等の金言を記
憶するを得べし。

第八課

〔課題〕 アブラムの召。

〔教材〕 創世記十一章廿七節より十二章九節迄。

〔朗讀〕 創十一章三十一節より十二章九節迄。

〔金言〕 信仰なくば神を悦ばすこと能はず（希伯來書十一ノ六）

〔引照〕 ヨシユア二四ノ一三。ネヘミヤ九ノ七、八。イザヤ四一ノ八一―一〇。

五一ノ一二。ミカセノ二〇。使三ノ二五。セノ一―五。羅四ノ一三。加三ノ

六一九。雅二ノ二三。

〔教訓〕 何事によらず神の命に柔順に服従するとの如何に幸福なるかを知らしめ、時として神の命は其如何なる理由かを知るに苦しめども、我等神の子等は只だ神の恵みを信じて疑はず、つぶやくことなしに服従すべきものなるを生徒の心に留めしむるを以て此學課の目的とす。

〔教話〕 ノアの洪水の時方舟に進入つて助かつた人間の子孫が段々に殖えまして世界中に住むやうになりました。彼等は初めの中は神様の仰せに能く従ひましたが、後には神様の代りに木や石で作つた偶像を拜んだり、太陽や月を神様として拜んだりする様になりました。（日本にも多くの偶像信者あることを指摘して其の如何に不條理にして笑ふべきものなるかを生徒に悟らしむべし）併し澤山の人間の中には何處までも神様に事へて偶像などを拜まない義しい善い人が居りました。カルデヤのウルと云ふ處に住んでゐたテラと云ふ人は其の義しい人の一人でありました。此人は周囲の悪人と一緒に住んでゐるのが厭やでありますから其子のアブラムと媳のサライと孫のロトとを引き連れてカナンと云ふ土地に行つて住まうと思つてウルのを旅立しました。カナンの地は大層遠い所でありますからテラはハランと云ふ所に滞在してゐる間に年老て死にました。そこで神様はテラの子アブラムに命じて、ハランの地を出で、神様の知らせて下さる或國に向つて旅立する様になさいました。アブラムは自分の行く國

は何處であるか少しも知りません。併しアブラムは神様がきつと宜しい處に自分を導いて下さると信じて居ましたから、少しも心配せずドシ／＼進んで行きました。自分の行くところは何處であるか知らないけれども只だ神を信じて旅立したのであります。能く之れに似た話が今から三百年前に英國から米國に移住したピニョリタンの事に就いて西洋歴史に載つてあります。ピニョリタンと云ふのは英國に住んでゐた神を信する善人の寄合でありましたが、英國の王様に迫害されて大層苦しめられましたので、自由に神様を信じて楽しく暮す處に行きたいと思ひまして、其頃はまだ少しも開けてゐないアメリカの大陸に移住したのであります。今の米國人中で一番信仰のよい立派な人々は、大抵此ピニョリタンの子孫であります。(教師は此の清教徒移住につきて彼のメーフラワー號にて、プリモス岩に上陸せし物語等を續けて、彼等が如何に神を信じて未知の國土に新天地を開きたるかを、アブラムが未知のカナンを指して移住せる事蹟を結び付けて語るべし)

アブラムは神様が必然よい處に導いて下さることを信じて、何事にも少しも神を疑はないで其命令に従ひましたから神は大層アブラムの信仰を悦び給ひました。彼れに一つの善い名前を與へられました、夫れは「神の友」と云ふ名前であります。アブラムは信仰によつて神を悦ばせましたから神は彼れを御自分の友と呼び給ひました。「信仰なくば神を悦ばすこと能はず」と云ふ今日の金言は誠に大切な教へであります。

(注意) 吾人は前週の學課即ちノアの方舟の物語を以て創世記の一段落たる天地創造の物語を終へたり。今日の學課以下はエダヤの三祖先たるアブラム、ヤコブ、ヨセフの物語に移らんとす、此等祖先の物語を一貫せる大教訓は矢張り主として柔順なる服従と云ふ

ことなり、父母長者の命に彼是れ理由を問ふとなしに服従するの習慣を遺らしむるは十歳前後の兒童に取り最も大切なる教育なり、況んや神に對してをや。

第九課

〔課題〕 アブラムの寛大とロトの擧げ。

〔教材〕 創世記十三章一節より十八節まで。

〔朗讀〕 創世記十三章一節より九節まで。同十二節より十三節まで。

〔金言〕 己れ人に施れんとする事は亦人にも其の如く施よ。(路六ノ三二)

〔引照〕 百、三一ノ二四―二八。詩一一九ノ三六。箴一ノ一九。太六ノ一九―

二二。路二ノ一五。約一三ノ三四。羅二ノ一〇。哥前一〇ノ二四。一三

ノ二―二三。雅二ノ八。

〔教訓〕 アブラムが己れのみ利益を獨占せんとせずロトの幸福を思ひ親切に公平にロトをして先づ己が欲する所を撰ばしめたる如く、吾人も亦己が事のみ顧みず人の事をも顧みて、己れの欲する所之を人に施せと云ふ金言中の金言を守る様生徒を奨励するを以て此學課の目的とす。

〔教話〕 アブラムは妻のサライと甥のロトと其外大勢の家來を引き連れてカナンの地に行き其處に住んで居りましたが、大きな饑饉があつた爲め一度エジプトの國に参りまして饑饉が終るまでエジプトに留まりました。其間にアブラムは澤山の財産を得て非常に金持ちになりました。其頃は牛、羊、驢馬、駱駝などの家畜を澤山有つてゐる者が財産家と云ふのでありました。やがてアブラムは其家族と財産とを引き纏めて故郷のカナンに歸らうと思ひましてエジプトを出でましたが、愈よカナンの地に近づいて見ますと、茲に一つ心配な事が出来ました。それはアブラムと甥のロトとが何方も澤山の家畜と家來とを有つてゐるので、カナンの地には兩方一緒に住んでゐる丈けの場所がなく、何方か一方は他に引移らなければならぬ有様になつたからであります。皆様、牧畜をする人に取つて一番大切なものは牛や羊を牧つて置く青草のある牧場でありまして、其次には良い水の出る井戸であります。カナンの地にはアブラムとロトと兩人の家畜を牧う丈けの牧場も井戸もなかつたのです。それですから二人

の家來共の間に牧場の奪ひ合ひが初まりました。井戸の水も競争して汲まねばならぬ様になりました。アブラムは其處で考へました、是は大層困つた事だ、自分とロトとは伯父甥の仲で、昔ハランの地を旅立してカナンに到りカナンからエジプトに行き今又再びカナンの地に歸つて来るまで、共に艱難辛苦をして斯く多くの財産をも作つたのである、それを今になつて牧場の事の爲めに争ふことになつては誠に残念である、これは一つ自分が辛抱してロトに利益を譲りさへすれば治まることであるから左様云ふ事に致しませうと考へて、ロトに向つて申しますには私共は御互に兄弟同様の間柄であれば私とお前との間にも又わが家來とお前の家來との間にも競争などをしてはならぬ、併し誰れでも良い牧場を欲しいのは同じ事であるから斯うして一處に居れば自然に争ひも起る筈である、因て今後は二人が別れくになつて暮すことにしやうと思ふが、それにはお前が第一に自分の好きな土地を撰ぶが宜い、斯く廣々した土地が東西南北にあるのであるから何も同じ所に一緒に居ねばならぬ譯ではない、お前が

若左にゆけば私は右にゆかう、お前が若右にゆけば私は左に行かう、私はお前の撰んだ土地の残りを自分の土地にするから、少しも遠慮なしに好む所を撰ぶがよいと斯様に申しました。そこでロトはヨルダン河の低地一帯を自分のものとしてソドム、ゴモラの邑々をも自分の領分に入れました。此ソドム、ゴモラの人々は皆な悪人で神様の前に大きな罪人でありましたので、ロトの撰んだ此土地は後に神の罰を受けて天から火が降つて来て滅ばされました。ロトは慾張りの爲めに其の撰び方を間違つたのです。アブラムはロトの撰んだ後ちカナンの地に住みましたが、土地はロトの撰んだ土地よりも悪かつたけれども、勉強して家業を勵みましたから段々繁昌して其子孫は濱の砂の様に空の星のやうに殖えて、遂にユダヤ國の先祖となつたのであります。(教師はアブラムの寛大なる處置を高調せん爲め、我邦の舌切雀の昔譚の重いつゝらと輕いつゝらの話を附け加へて無慾は大慾と云ふ教訓を説明するも可ならん) アブラムがユダヤの先祖となつたのは全く今日の日課の金言を守つたからであります。『己れ人

第九課 アブラムの寛大とロトの換ひ

に施れんとする事は亦人にも其の如く施よ』

第十課

〔課題〕 アブラム、ロトを救ふ。

〔教材〕 創世記十四章一節より廿四節まで。

〔朗讀〕 同十節より廿節まで。

〔金言〕 朋友はいづれの時にも愛す、兄弟は危難の時のために生る（箴十七ノ十七）

〔引照〕 詩一一〇ノ四。六ノ一一二八。

〔教訓〕 此學課も亦前課の如くアブラムの友情、親切、公明正大の氣象を示すものにして、生徒をして深くアブラムの勇敢なる行動の中にも優しき正しき心あるを慕はしむるを以て目的とす。

〔教話〕 前の日曜に學びし通り、アブラムとロトとは牧場の事のために争ひの起らぬやうに、別れ別れになつて住むとに相談をして、ロトはヨルダン河の平

第十課 アブラム、ロトを救ふ

原に住んでソドム、ゴモラの邑々に近く天幕をはるることになり、アブラムはカ
チンの高地に天幕を張つて、ごちらも幸福な日を送つてをりました。皆さん御
存知の通りアブラムは「神の友」と云ふ良い名をいたゞいた位でありまして誠
に義しい親切な善人でありましたが、又彼は大層偉い軍人でありました。其頃
は澤山の王様が諸處に住んで互に戦争をして、強い者は弱い者の家來でも
家畜でも婦女子でも皆な奪つて行つたものです。アブラムの家族も財産も段々
にふえまして敵の來襲をふせぐ必要がありまますから、勇氣のある壯丁ばかりで
三百人以上の兵隊をつくつて自分が其大將になつて何時でも戦争のできるやう
に毎日訓練をしてゐました。

一日アブラムの天幕に大騒動がおこりました、それはヨルダン河のロトの天幕
から一人の家來が血だらけになつて駆けつけてきて大變な事を注進したので
す。多勢の人が此使者を取圍んで何事が起つたかと尋ねまますと、使者は息を切ら
しながら以下の如く話しました。ハビロンの王等が四人も聯合して澤山の兵隊

を連れてヨルダン河の方に攻めてきて、ソドム、ゴモラの邑々を襲ひました。

こちらの王達も五人まで聯合して澤山の兵隊で一生懸命に戦ひましたが衆寡敵
せずして終に大敗北を致し、王達は坑の中に落ちてしまひ兵隊共は山に遁げて
行き、敵兵は勝ちほこつてソドム、ゴモラの人々を捕虜として凡ての財産と婦
子供まで引き連れて本國に凱旋しました。そして其中にはロトと其家族も同じ
く捕へられて行きました。私は一人のがれて此事をお知らせに参りましたと云
ふのです。アブラムは之を聞きてサア一刻も猶豫はならずと命令を下して瞬く
間に三百十八人の勇士を一隊に作りまして大速方で敵の跡を追つかけて行きま
した。行くこと三四十里にして終に敵軍に追付きましたが、其日は態と戦を初
めないで夜になつてから夜襲を試みて一遍に敵を撃破りました。ロトと其家族
は勿論のこと凡ての物を奪り回して之を本國に引き連れて還りました。此時ソ
ドムの王様はアブラムの凱旋を歓迎致しましたが其請ふがまゝに取り戻して來
た凡ての財産をソドム王に還しまして一本の糸でも靴紐でも決して自分の物と

して私しするを致しませんでした。(茲に教師は北清事件の時聯合軍の外國兵が随分亂暴を行ひしに拘らず我日本兵は規律を守りて一物をも掠めず大に世界の賞讃を得たる事實を語るも可ならん) 又其時サレムの王メレキゼデクと云ふ人が出迎て「願くば天地の主なる至高神アブラムを祝福したまへ」と申しました。此メレキゼデクと云ふ人は王様であつて同時に神の祭司であります。祭司とは神を祭り之に事へて其御旨を人々に傳へたりする者であります。アブラムは戦争に勇敢で友愛に深く且つ戦に勝つても妄りに勝ちほこることなく何處までも正義を守つて掠奪などを致しませんので、神の祭司がアブラムを祝して神の祝福を與へたのであります。

諸君ロトはかゝる勇氣のある義しきアブラムによつて救はれました。此のやうな良友をもつてゐたロトは誠に幸福であります。「苦しき時の友は眞どの友なり」と云ふ諺があります。アブラムは今日の金言にある通り、いつれの時にもロトを愛しましたが、わけても危難の時に最も多くロトの爲めに盡しました。

「兄弟は危難の時の爲めに生る」是れが眞正の兄弟であります。

第十一課

〔課題〕 ソドム、ゴモラの亡び。

〔教材〕 創世記十七章一節より八節迄。十八章十七節より三十三節迄。十九章二十四節より二十九節迄。

〔朗讀〕 創世記十八章廿六節より三十三節迄。

〔金言〕 エホバは義しきもの、途を知りたまふ、されど惡しきもの、途はほろびん。(詩一ノ六)

〔引照〕 太十ノ十五。十一ノ二十三。路十五ノ七一十。希一ノ七一十四。

〔教訓〕 神に叛きて惡事を行ふものは亡ぼされ、神を信じて正しきを行ふものは救はるゝと云ふ神の賞罰を、深く生徒の心に留めしむるを以て此學課の目的とす。

〔教話〕 前の學課に學びし通りアブラムは捕虜になつたロトを敵軍から取りか

へして再びカナンの地に住みましたが、ロトは相變らずソドム、ゴモラと云ふ惡人共の住んでゐる土地に住んでゐました。アブラムが九十九歳と云ふ老人になつた時、神はアブラムに一人の子を賜はると云ふ約束をなさいまして、終には天の星の數のやうに無數の子孫をふやしてやると仰せられて、其時から名前をアブラムと改められました。アブラムとはイスラエル人の言葉で「衆多の人の父」と云ふ意味であります。それで私共は此學課からはアブラムをアブラムと改名させて呼ぶことにしませう。アブラムは初めは神の友と呼ばれ、今又た衆多の人の父と呼ばれました。彼れは本當にユダヤ國の先祖となりまして、救主イエス、キリストも此アブラムの子孫の中から生れたまひました。神は義しい者を子孫未代まで恵みたまふのである。これに反してロトの住んでゐたソドム、ゴモラの地は人民が皆惡い行ひを致しまして毎日毎夜神のみこゝろを痛め奉つるとばかりでありました。私は昔のソドム、ゴモラと云ふ處は恰度今日東京ならば淺草、大阪ならば千日前、京都ならば京極といつたやうな詰らない

楽しみばかりしてゐる處であつたらうと思ひます。神様はその様な處を喜び給ひ
 ません。そこで何時まで辛抱して待た給ふても悔改めませんから、遂に已むと
 を得ず、天から硫黄と火を降らせ此市を焚き亡ぼしたまひました。其前にア
 ブラハムはソドム、ゴモラの爲めに神様に御願ひを致しました、神様よもしソ
 ドムの地に五十人の義しい人が見付かりましたら其人々の爲めに市を滅ぼすこ
 とを止めて下さいませうか。神はすぐに承知せられました、宜しい何萬人のう
 ち僅に五十人でも義人がゐるならばソドムを亡ぼさないことにしやうと。然る
 に五十人居りませんのでアブラハムは神に願ひ直して四十五人を捜した。處が
 其四十五人が見當りませんから今度は四十人と願ひ、次には三十人次には二十
 人終には十人まで降つてきましたが、悲しいことには其十人さへ居なかつた爲め
 ソドム、ゴモラは到頭天よりの火で焼き盡されて仕舞ひました。只神はアブラ
 ハムの甥である故を以てロトと其二人の娘だけは助け出し給ひました。神様は
 僅かの人數でも義しい人があれば其處を滅したまふとはありません。一人の人

の靈魂は全世界よりも神様の目には貴くあります。牧羊者は百匹の羊のうち
 で一匹を見失つたならば残りの九十九匹を野において其一匹の迷へる羊の爲め
 に野山を捜しまはります。そのやうに神は一人の人でも容易に見棄て給ひませ
 んソドム、ゴモラが終に亡ぼされたのはアブラハムのやうな義人が僅かに十人
 も市中にゐなかつたからであります。ソドム、ゴモラには教會も日曜學校もなか
 つたでせう。もし此組の諸君だけでもゐたなら、神様は其市を救ふて下さつた
 でせう。善い小兒は神が最も喜び給ふ者であります。

第十二課

〔課題〕 復習。

〔教材〕 創世記六章より十九章まで。

〔朗讀〕 第六課より第十一課迄の金言を教師唱へ生徒をして和せしむ、即ち左

の如し。

(六) ノア、エホバの凡て己に命じたまひし如くなせり。

(七) 我わが虹を雲の中に起さん是我と世との間の契約の徴なり。

(八) 信仰なくば神を悦ばすこと能はず。

(九) 己れ人にせられんとする事は亦人にも其の如くせよ。

(十) 友はいづれの時にも愛す、兄弟はなやみの時のために生まる。

(十一) エホバは義しさもの、途を知りたまふ、されど悪しき者の途はほろびん。

〔教話〕 今日(こんにち)は過ぐる六つ(むつ)の日曜日(にちようび)の學課(がくこ)の復習(ふくしゅう)を致します。次の問(つぎのと)に答(こた)へて

下さい(くだ)い(生徒をして一問づつ答へて)

一、なせ神様(かみさま)はノアの時に洪水(こうすい)を起(おこ)しましたか。

二、洪水(こうすい)の前に神様(かみさま)は何(なに)を造(つく)るやうノアに命(めい)じましたか。

三、ノアは方舟(ほうふね)の中に何様(なにやう)な物(もの)を入(い)れましたか。

四、ノアの方舟(ほうふね)は何(なに)と云(い)ふ山の頂(たか)きにとまりましたか。何故(なにゆゑ)ノアは鳩(はと)を放(はな)して

やりましたか。

五、洪水(こうすい)は何(なん)ヶ月(げつ)ほど續(つづ)きましたか、洪水(こうすい)の止(や)んだ時に神様(かみさま)は何(なに)の徴(しるし)に虹(にじ)を

起(た)めましたか。

六、神(かみ)の友(とも)と云(い)ふ善(よ)い名(な)をいた(い)た人(ひと)は誰(た)れですか。

七、神(かみ)の友(とも)アブラムは人(ひと)々が偶像(ぐわう)を拜(まつ)んだりして汚(けが)らはしいから自(じ)分の國(くに)を立(た)つて何(なん)と云(い)ふ國(くに)に向(むか)つて旅行(りょこう)しましたか。

八、アブラムの甥(おい)は誰(た)れですか。又(また)彼等(かれら)は何(なん)の職(しやく)業(ぎょう)をしてゐ(ゐ)ましたか。彼等(かれら)の

財産は何ですか。

九、何故アブラムとロトとは別れくに住みましたか。どちらが先に土地を
撰びましたか。

十、ロトは何と云ふ土地を撰びましたか。

十一、ソドム、ゴモラの方のロトの天幕から一人の家來が逃げて来て何をア
ラムに知らせましたか。

十二、アブラムがロトを救ふために率ゐていつた兵士は何人ですか。

十三、ロトを救つて歸つて來た時ソドムの王様が品物を返して呉れどアブラム
に申しましたが其時アブラムは何と答へましたか。

十四、アブラムは何故アブラハムと改名しましたか。

十五、ソドム、ゴモラは何故天の火で焼き盡されましたか。

十六、ソダム、ゴモラが亡ぼされる前にアブラハムはさういふ祈を神様に致し
ましたか。

以上の問答の他にも臨機の質問を試みるも可、尙時間あらば上記金言を繰り返
して一金言につき尤もそれに適したる例話(例へば「己れ人にせられんとする
事は亦人にも其如くせよ」の金言に對してはアブラハムがロトに土地を譲りし
話を引かしむ)を生徒をして簡單に話さしむべし。

第十三課

〔課題〕 荒野に於けるイシマエル。

〔教材〕 創十六ノ一―十五。創十七ノ十五―二十一。創二十一ノ一―二十。創二十五ノ八―十。

〔朗讀〕 創世記二十一章十四節より二十節まで。

〔金言〕 神童兒と偕に在す、彼遂に成長り曠野に居りて射者となれり。(創二一ノ二〇)

〔引照〕 詩百七ノ九―十四。羅五ノ三、四。希十二ノ五―十一。

〔教訓〕 不幸や患難は決して空しく來るものにあらず、神は患難辛苦の中にも常に吾等を顧みたまふて、求むるものに助けを與へたまふべければ、吾等は如何なる不幸に出會ても失望す可らず、艱難汝を玉にすと云ふ古人の言を信じて、益々勇氣を以て忍耐すべきを教ふるを以て此學課の目的とす。

〔教話〕 アブラハムに神様がイサクと云ふ子供を授け給ふたことは此前の前の學課で學びましたでせう。イサクはアブラハムの跡嗣でありまして神様は其子孫を天の星のやうにふやすと云ふ約束をなさいました。ところがアブラハムの先妻の子にイシマエルと云ふ十五六才の青年がありました。アブラハムは本妻のサラにイサクが生れるまでは、イシマエルを自分の世継ぎにする積りで可愛がつてをりましたが、イサクが生れてからは之を別家にせねばならぬことになりましたから、或時其事をイシマエルと其母ハガルとに能く言ひ聞かせて、遠國に旅立ちをさせました。(ハガルはアブラハムの妾にしてイシマエルは妾腹の子なるとは語る必要なしアブラハムが妻のサラに迫られてハガル母子を放逐せる殘忍の行爲も亦然り、故に茲には暫らく斯く變化せり) ハガルはエヂプト生れの女でありますから、其子イシマエルの手を引いて故郷のエヂプトを指して旅立しました。エヂプトの國に行く途中には大きな沙漠がありまして、二人は其處を通過せねばなりません。駱駝や馬に乗つても沙漠の旅行は中々難儀をせ

ねばならないのですが、イシマエル母子は歩いて旅びをするのですから堪まりません。アブラハムから貰つてきた革袋の中に飲水を入れて少許りのパンと共に之を自分の肩に負ふて、焼けるやうな炎天をあえぎく二人は手に手をとつて進んでゆきました。(教師は我邦の歴史より源義朝の妻常盤御前が頼朝、範頼、義経の三人の子を連れて雪中を落ち行ける物語を引用して母子の苦辛を形容するも可ならん) 皆様沙漠の旅行に一番大切なのは飲水であります。其飲水が無くなつてしまひましたから二人は非常に困りました。ハガルは女ですけれども大人ですからまだしも辛抱ができますが、少年のイシマエルは可愛相に喉がかわいてもう一歩も歩くことが出来なくなりました。そこでハガルはイシマエルを樹蔭に寝かしておいて、自分は一二町遠い所に行つて聲をあげて泣き悲しみました。ハガルは「我子の死ぬるを見るに忍びずといひて聲をあげて泣く」と聖書に書いてあります。何んと憐れな話ではありませんか。ハガルもイシマエルも全く神様が自分達を見棄て給ふたから、此沙漠の中央でのたれ死にをする

より外はないと覺悟をしたのであります。ところが神様は決して彼等を見棄てなさいません、彼等の泣き叫ぶ聲はチャンと神様の御耳にどいてをります。そこで神の使が突然二人の前に現はれて其近所に井のあることを知らせてくれました。此井と云ふのは沙漠の島とも云ふべき緑地の事でありました。オーシスは清い水の湧き出で、青々とした緑の草木の生へてゐる處であります。そこに二人は行きて充分に水を飲み木の實をたべて飢と渴きをどめました。イシマエルは沙漠の中で此様な難儀をいたしましたして段々成長しましたが、彼れは體格の立派な力の逞ましい青年となりましたから、曠野の中に鳥や獸を弓で射ることを習ひまして其子孫から世界中の獵師ができたのであります。神様がイシマエルを荒野の中で患難辛苦をさせ給ひましたのは、全く彼れを強い人にする爲めでした。人は難儀をせねば偉い人になれません、今日の金言には「神童兒と偕に在ます」とあります、神様は如何なる時にもあなた方と一緒においでになります。どんな事があつても決して失望してはなりません。

第十四課

〔課題〕 アブラハム、イサクを献ぐ。

〔教材〕 創世記二十二章一節より十九節まで。

〔朗讀〕 創世記二十二章一節より十三節まで。

〔金言〕 信仰によりてアブラハムは試みられし時イサクを献げたり。(希伯來書

十一ノ十七)

〔引照〕 希六ノ十三―十五。希十一ノ十七―十九。雅二ノ二十一―廿四。

〔教訓〕 天父に對するアブラハムの絶對の信仰と、父に對するイサクの完全の服従との事蹟によりて人は如何なる患難の場合にも全智全能の愛の神を信じて其命を遵奉すべきものなることを知らしめ、同時に患難は決して空しく來るにあらず神が吾人を試練せんが爲めに與へ給ふものなるを知らしむるを以て此學課の目的とす。

〔教話〕

諸君は體育場においてになつたことがありませう。體育場には多勢の人が或は長い距離の競争をしたり、或は器械體操をしたり、或は柔術、擊剣を稽古したり、或は障害物を乗り越へたり、其外種々な運動をしてゐます。これは何の爲めでありませうか。競走をすれば息が切れます、器械體操をすれば汗が出ます、擊剣などをすればお面やお小手が仲々痛いですが、さうして障害物を越へるには時々落ちて怪我をします。それに何故多くの人はこつこつと事々種々の目的を思ひつゝに答へしめよ。それは言ふまでもなく身體を強壯にして體格を立派に鍛ひあげる爲めでありませう。(次に學校に於て何故に六かしき學課を學ばねばならぬか、試験はなぜ受けねばならぬか、宿題の如き面倒なものを何故爲て行かねばならぬか等の問題を出して、體育同様智育上にも練習熟達の必要なるゆえんを生徒に知らしむべし) 又軍隊を強くするには炎天にも數里の間驅足をしたり、又雪中行軍のやうな苦しい事を致します。

さて諸君今日はアブラハムの身を取つて一番苦しかつた事と其時に彼れがどう致したかについて御話を致します。アブラハムは其獨子のイサクをどの位可愛がつたでありませうか、例巧で活潑で美しい少年のイサクは年老つたアブラハムには何物よりも大切な寶であり、又何よりも嬉しい慰めでありました。ところが一日神様はアブラハムに向つて「汝獨子イサクを我に献げよ」と云ふ御命令を下しなさいました。アブラハムは非常に驚いて泣き悲しみました。併し神様の仰せですから致し方がありません、イサクを祭壇に献げて之を宰らうと決心しました。諸君神様は決してイサクを殺して祭壇に献げよと仰せられたのではありません、神様はそのやうな残酷なことを命じたまふ譯がありません。これは心の中で、イサクを自分のものでない、神様の御用に立てる爲めに育てゝゐるのだと云ふ決心をせよと云ふ意味でありました。アブラハムはそれを間違へてイサクを本當に殺せよと云はれたと考へたのであります。併しアブラハムは一旦神にイサクを献げると決心しましたから、薪木と火とを持つてイサ

クをつれてモリアの地の或る山に行きました。やがて二人の従者を山腹のところにのこして置き、今度はイサクに薪を負はせて自分は刀と火とを持つて二人で山の絶頂に登つてゆきました。途中でアブラハムは悲しみの餘りハラ／＼と涙をこぼしたでせう、それに可愛相にイサクは少しも自分が殺されると云ふことを知りません、お父様薪木と火とはありますが屠るべき小羊はどこにありませんか、尋ねました。アブラハムは神様が今に小羊を下さるでせうと答へていよいよ神様の示したまふところに着きました。そこでアブラハムはイサクに神様の御命令をよく／＼言ひ聞かせて、それからイサクを縛りあげて祭壇の薪木の上のせてアツヤ一刀の下にイサクを殺さうと致しました。此時神様は天の使を以て「アブラハム汝の子を屠るなかれ」と云つて急に其手を止めさせ給ひました。そして後ろの籐の中に一頭の牡羊が繋がれておりましたから、之をイサクの代りに屠つて神に献げました。神様はアブラハムが其獨子をも惜まないほど神の命に従ふ所の美はしい信仰を見られて大層満足せられました。又

イサクが父の言を聞きわけて祭壇の上に殺されやうとした其柔順と勇氣とを非常にお賞めになりました。怒よ之から二人の上に幸福を賜はりました。アブラハムもイサクも斯云ふ非常な患難の場合にも神に背きませんでしたから、神様は二人の信仰を益々強くせられました。大に之を祝し給ひ其子孫を空の星の如く廣の眞砂の如く、繁昌せしめ給ひました。今日の金言にある通り、アブラハムは神様の試験に首尾よく及第したのであります。

(附言、或兒童教育家は此話は餘り残酷なれば除くべしと主張せり、されど斯くの如く潤色せば差支なからんを信ず)

第十五課

【課題】 井邊のソベカ。

【教材】 創世記廿四章一節より六十七節迄。

【朗讀】 創世記第廿四章十五節より廿四節迄。

【金言】 仁慈と眞實とを汝より離すこと勿れ、さらば爾神と人との前に恩寵と好名とを得べし(箴三の三、四)

【引照】 太五ノ四一、四二。一〇ノ四一、四二。路六ノ三〇―三六。約壹、四ノ七―二一。

【教訓】 生徒をして親切の行爲の如何に美はしく又貴重きものなるかを知らしめ、報酬を求めざる善行は眞の善行にして、神と人との愛せらるゝは全くかゝる利他的愛情の人なることを心に記しむるを以て此學課の目的とす。

【教話】 アブラハムの子イサクも段々成長して最早や壯年になりました。その

でアブラハムはイサクの爲めに良い妻をめぐつてやりたいと考へて、大勢の僕の中で一番年長つて忠義な一人の家來に命じて、遠く自分の故郷のメソボタミヤと云ふ國に旅行して、そこから一人の嫁を貰らつてくる様に言ひ付けました。家來は十頭の駱駝に種々の寶物や土産物などを積みまして外の僕をも連れて出發しました。之は随分六かしい役目の旅行であります。けれども此家來はアブラハムの一番信用してゐる大切な家來だけあつて必ず神様が目的を達せしめて下さる事を信じて行たのです。彼れはメソボタミヤのナホルと云ふ人の住んでゐる邑に着きまして、其駱駝を邑の外にある井の傍らに伏さしめて自分も其側に立つてゐました。恰度時刻が夕方で邑の婦女共が水を汲みに此井戸に出て來るのであります。そこで家來は神様にお祈をいたしまして申しますには、神様どうぞ只今私の捜してゐるイサクの嫁になる人に遇せて下さい。私が此處に水を汲みにくる多勢の婦女達に向つて、どうぞ水を一杯飲ませてくれと申しますから、若其中の一人の婦女がハイ御飲みなさいあなたの駱駝にも飲ませませうと云つ

たら、其親切な娘こそイサクの嫁に神様が定めてお置になつた人であるを知つて貰つて歸りませうと斯う申して待つてゐました。すると間もなく美しい乙女が水瓶を肩にのせて邑からで、きて井戸に下りて水を汲み上げてまゐりました。家來は其乙女に向つてどうぞ少し計り水を飲ませて下さいと頼みますと、乙女は快よく承知しまして、サア澤山召上かれ、さうしてあなたの駱駝もさぞ喉が干いてゐるでせうから私が今井戸から汲んできて飲ましてやりませうと申して、甲斐々々しく井戸に下つて水桶の中に澤山の水を汲み入れて十頭の駱駝にのませて呉れました。見ず知らずの旅人に水をのませてやるだけでも親切な行ひであります。況して澤山の家畜にまでをませてやるなどは中々出來ない仕事であります。そこで家來は此娘こそ神様がイサクの爲めに撰び給ふた嫁であるを信じて、直様立派な金の腕輪を其娘に與へて、あなたは誰れの娘で名は何と申しますか、又少し御話したいことがあるからあなたの家に泊めて下さいと申しました。娘は自分はナホルの女で名前はりべカと申します、家には親も

御草も澤山ありますから来てお泊りなさいと答へました。家來は大層喜んで其家に参りまして兄のラバンといふ人と色々相談を致し、首尾よく此リベカを貰ひ受けてアブラハム、イサクの處に歸つて來ました。イサクは此リベカを要りて妻といたし之を愛して生涯樂しき日を送りました。此話は聖書の中にある最も美しい話の一つであります。旅人をねんごろにすること、報酬を願はない親切の行ひは必ず神様と人々に恵まれて、却つて思ひも懸けぬ貴い報ひをうけることを教へるのであります。今日の日課の金言は能く記憶して下さい。

第十六課

【課題】 エサウ長子の權を賣る。

【教材】 創世記第廿五章十九節より三十四節迄。

【朗讀】 創世記第廿五章二十四節より卅四節迄。

【金言】 なんぢら至美たる賜を慕ふべし尤も善道を爾曹に示さん (哥前十二ノ三二)

【引照】 羅十四ノ十七。哥前三ノ十六、七。六ノ十二、三。十ノ三十、三十一。希十二ノ十五—十七。彼前二ノ十一。

【教訓】 身體は精神及び靈魂の僕にして主人にあらず、故に肉體の慾を満足せしめんが爲めに精神の働をさまたげ、又は大切なる義務を怠るが如きことあるべからず。儒教にては身體髮膚之を父母に受くと教へたれど、基督教にては肉體は神の宮殿なりと教へらる。故に肉慾を制するは吾等が第一の務めな

ることを生徒に知らしむるを以て此學課の目的とす。

〔教話〕 諸君は御宮を見たことがありませう、御宮は神様を祭る所であります。此御宮の中に祭つてある神様とごちらが大切な者ですか。無論御宮よりも神様の方が貴いものであります。さて諸君私共人間は一人々々立派な神の宮殿を持つてをります、之れは即ち此の身體です。此の身體は最も大切な神の宮殿であります、其中に神様がやどつて御いでになります。私共の心は神様に似せて造られたものですから此世の中で私共の良心は貴いものはありません。此貴とい良心を容れてをる器物ですから、私共の身體はどこまでも清くして汚さないやうに大切にせねばなりません。容器が汚れたりすれば中味も汚れるわけでありますから、此身體は第一病氣にかゝらない様にして、之れから色々な慾の爲めに此身體をけがさないやうにせねばなりません。之について面白いお話が聖書の中に書いてあります。

イサクに二人の子供がりました。兄はエサウ弟はヤコブと申しました。エ

サウは些と亂暴の性で野山をかけまはつて弓で鹿を射ることはかり好みました。弟のヤコブは温和しい性質で父母と一緒に天幕にをつて家の仕事をすることを好みました。其頃の風俗で何か祖先のお祭りをする時には其家の總領息子は或時間だけ斷食をせねばなりません、兄のエサウは其家の相續人ですから此斷食をする役目に當つてゐます。所がエサウは亂暴の性質で家の事などは一向構はないで獵にばかり出てゐます。それで或祭日にエサウは何時もの様に獵から歸つて來ると、弟のヤコブはお祭の御馳走の爲めに何か甘い食物を煮てゐました。エサウは空腹で堪りませんから弟に向つて、其あつものを一杯をれに呉れないかと申しました。弟は驚いて「兄さん何と仰しやいます、あなたは此家の相續人で今は丁度斷食をする時ではありませんか。もしあなたが此あつものを食べたならばあなたは相續人になれませんよ」とかやうに申しました。すると亂暴のエサウは「ナニ構ふものか、わたしは相續人にならんでもよいから其あつものを呉れ、腹が減つて堪らないから早くよこせ」と怒鳴りました。ヤコブは色

色謀めましたけれどもエサウはどうしても聞きませんから、とうとう其あつものをやつて其代りに家督の權を兄さんから貰ひ受けました。かういふ風にしてエサウは只だ食べたいと云ふ念から大切な家督の權を弟にゆづつてしまひました。一椀の汁と相續權とを交易たのです。何と淺ましいことではありませんか。諸君エサウは食ひたいと云ふ口の慾の爲めに一身を過りましたのです。かういふ事はよくあるものですから充分氣を附ければなりません。口の慾を制し切ない様では外の慾には大抵負けてしまひます。食物は身體を養ふ爲めに食ふので口の慾の爲めに食ふのではありません。故に身體の爲めにならないものでは決して飲んだり食べたりしてはなりません。是れ神様の御宮殿を汚がすのであります。エサウは善き賜ものを慕はないで一時の食物の慾をしたひましたから、終にこんでもない失敗をしてしまひました。今日の金言は諸君が何時でも忘れてはならない教へであります。(生徒をして例により屢々此金言を誦讀せしむべし、又此教話中に酒と煙草の害を説き聞かすを可とす。煙草を試みんとす

る誘惑は十歳前後の子供にも起るものなり禁酒禁煙の美風を養成するは日曜學校教師の責任なりと信ず

第十七課

〔課題〕 ヤコブの天の梯子のまぼろし。

〔教材〕 創世記第二十七章四十一節より第二十八章二十二節まで。

〔朗讀〕 創世記第二十八章十節より十九節まで。

〔金言〕 我汝とともにありて凡て汝が往くところにて汝をまもらん(創二八ノ一五)

〔引照〕 讚美歌第二百四十九番。

〔教訓〕 神は常に我等に近く在まし常に恵みと助けとを與へ給ふ事を教へ、生徒をして祈りと讚美と善行とを以て天父に對する彼等の愛と信とを表はすべき事を訓ふるを以て此の學課の目的とす。教師は又此の學課に於て祈禱の精神を充分に吹き込む事を努むべし。

〔教話〕 前の學課で御話した通りイサクの子ヤコブは兄のエサウから家督の

權を貰ひまして、遂に凡ての惠福を自分獨りで受ける事になりましたので、兄のエサウが自分の落度を思はないで、唯ヤコブにたまされた様に思つてひどく弟を憎みました。この事を母のリベカが知りましたからヤコブを呼び寄せて早速郷里のメンボタミアの方に逃げて行くやうに云ひつけました。そこでヤコブは母の言に従ひ只だ一人でだんく遠い國に旅立ちしましたが、或處に着いた時、日は早や暮れてしまひましたから、そこにある石を取つて枕とし一夜を其處に過しました。まだ年若い青年が野原に唯一人野宿をする事は如何に心寂しく物悲しく思はれたでせう、目をあげて空を仰げば美しい星がピカピカと光つて恰度天の父様の目にある涙の玉の様に見えました。野原を渡る夜の風はヒューヒューと鳴つて恰度天の父の愛の言葉をさやく様に思はれました。ヤコブが疲れた頭を石の上につけるや否や、忽ち大きな梯子が天にまで届く程高く自分の枕元にたてられて、神の使たちが其梯子を登つたり降つたりして居るのを見ました。さうして其梯子の一番上の方に天の神様がお立ちになつてヤコブに仰

第十七課 ヤコブの天の梯子の如

しやるには、怖るゝ勿れわれは汝の祖父アブラハムの神汝の父イサクの神である、われは今汝が寝て居る此土地を汝と汝の子孫に與へるであらう。又神様の曰はるゝには『われ汝と共にありて凡て汝が往く所にて汝を護らん』と約束し給ひました。と思つて目を開けて見ればそれは一夜の夢でありましたが、ヤコブは是に依つて神様の御心を知つて非常に力を得たのであります。諸君此のヤコブが夢に見た天の梯子とは何の事でありませうか。又天の使が昇り降りして居るのを見たとは何の意味ですか。私は是は祈禱の意味であらうと思ひます。ヤコブが寂しさに堪へないで深夜熱心に神に祈りましたので、神様の御心が判然とわかる様になつたのは、恰度天の梯子に神の使が昇り降りしたと同じ事であります。私共がどのやうな寂しい時にも悲しい時にもヤコブのやうに神様に祈りますれば、神様は必ず天の使を私共の上に降し給ふて力を添て下さいます。讚美歌の二百四十九番の二節にかうあります『主の使は御空に通ふはしの上より招きぬればいと昇りて主よみもとに近づかん』ヤコブは此様に何時も祈

りを以て神様に近づきましたから、神様は何時でも近くゐまして今日の金言にある通りヤコブを護つて下さいました。諸君は神様の愛し給ふ子ですから何も遠慮せずに自分の思ふ事を申し上げなさい。病氣の時にも悲しい事のある時でも祈る事を知つて居る人には何時も大きな慰めがあります。世の中に祈り程力のあるものはありません。どうです諸君は獨りで神に祈つた事がありますか。若まだないならば今日から祈る稽古をして下さい。正しい祈りは必ず聞かれるのであります。(教師は自己の知れる話の中より祈りの聞かれた例話を附け加へて此の學課の助とすべし、殊に少年少女の祈りの聞かれた話を選び又は作るを可とす)

第十八課

〔課題〕 ヤコブ、エサウの再會

〔教材〕 創世記第三十二章の一節より第三十三章の二十節まで。

〔朗讀〕 創世記第三十三章一節より十一節まで。

〔金言〕 我儕に罪を犯す者をわが赦す如く我儕の罪をも赦し給へ(路二一)

四)

〔引照〕 羅二二ノ一七―二一。撒前五ノ一五。彼前三ノ九。箴二四ノ二九。

〔教訓〕 惡に報ゆるに惡を以てする事なく、善を以て惡に勝つ事の如何に貴き事なるかを示して、生徒の心に此の貴き理想の實行を期せしむるやう獎勵するを以て此の學課の目的とす。

〔教話〕 諸君は子供が喧嘩をするのを見た事がありましたやう。一人の子供が何かしきりに惡口を云ふと外の子供もそれに負けないうで馬鹿とか阿呆とか云ひま

す、やがて手が出る石が飛ぶ、サー大變な騒ぎになつて到頭泣いたり怪我をしたりするので。ところが一方の子供がごんなに惡口を云つても今一人の子供がチツト辛棒して口答へをしないで居れば喧嘩は大抵納まつてしまひます。諸君この二人の子のどちらが偉いでしやうか。私はこの喧嘩をしない子の方がよつほど勇氣のある偉い子だと思ひます。自分の好きな人と仲好くするのは誰れにでも出來ます、悪い亂暴な子供にでも親切を盡くして、何か悪い事をしてもそれに逆らはないで却つて善い事をしてやるのは神様の愛して下さる一番偉い子供であります。悪い事を以て悪い事に報ひるのは丁度火を以て火を消すやうなものです。火を以て火を消さうとすれば火は益々大きくなつて何でも焼いてしまひます。火は水でなければ消されるものでありません。諸君一つ試めして御覽なさい、誰れかと仲惡になつて居たら一つ其の人を赦してやつて自分の方から仲直りをするやうにして御覽なさい。それが出來たら諸君は本當に神様の子供です、さういふ人は本當の日曜學校生徒です。

さて今日はヤコブとエサウが仲直りをした話を致しましやう。諸君の知る通り兄のエサウは弟のヤコブにだまされて家督の權を奪られたために、大層ヤコブを憎んで殺さうとしましたからヤコブは逃げて外國に參つて其處に二十年の間働いて澤山の財産を造りました。兄のエサウも澤山の兵隊の頭になつて居ました。そこでヤコブは故郷が戀しくなつて來ましたから國に歸つて兄さんに御詫びをして二人で仲好く暮したいと思ひ澤山の財産を駱駝に積んで何千と云ふ家畜を兄への贈物として引き連れ家族一緒にカナンの國に向つて旅立ちしました。ところが兄は四百人の家來を從へて之を國境に迎へると云ふ噂がヤコブのところへ聞えましたからヤコブは大層恐れしました。併し愈々近くなつた時にヤコブは走つてエサウの前に行き七度身を地にかがめて御辭儀をしました。其時エサウは如何しましたか、聖書には「エサウ走りて是を迎へ抱きて其の首をかかへて是れに接吻す、而して二人とも泣けり」と書いてあります。兄のエサウは全くこれまでの事を忘れてしまつて、弟の罪を赦してやり、舊よりも一層仲

の好い兄弟として暮しました。諸君ヤコブが自分の罪を悔いて兄に謝りましたのも偉いですが、エサウが恨みを忘れて弟を赦してやつたのは一層偉いではありませんか。今日の金言は諸君が毎日繰り返す主の祈りの一節です。諸君それは何と云ふ金言ですか當て、御覽なさい。(教師は復讐主義の不可なるを教へん爲め、日本の赤穂四十七士の例を引き、其勇氣は賞すべきも、其行爲は基督敎の教訓にかなはざること教ふるを可とす)

第十九課

〔課題〕 復習。

〔教材〕 創世記に於けるアブラハム、イサク、ヤコブの三族父の事蹟。

〔朗讀〕 第十三課より第十九課までの六學課の金言を教師唱へ生徒をして和せしむ、即ち左の如し。

(十三) 神童兒と共に在す彼遂にひととなり曠野に居りて射者となれり。

(十四) 信仰によりてアブラハムは試みられし時イサクを献げたり。

(十六) 仁慈と眞實とを汝より離すこと勿れさらば爾神と人との前に恩寵と好名とを得べし。

(十七) なんぢら至美たる賜を慕ふべし尤も善道を爾曹に示さん。

(十八) 我汝とともにありて凡て汝が往くところにて汝を守らん。

(十九) 我儕に罪を犯す者を我が赦るす如く我儕の罪をも赦るし給へ。

〔教話〕 以下記載の六問を掲げて生徒に答へしむ。

一 荒野に於て饑と渴きとに死せんとせる青年の物語をなせ。彼れの名を問ふ。何故に彼は獨り其處にありしや。彼は如何にして助けられしや。(教師は第十三課のイシマエルの話に就き他の質問をも試むべし)

二 一人の老人が若い青年に薪を負はしめ山に登り行き山上に壇を築きて將に其の子を屠らんとす。之は何の物語なりや二人の名を問ふ。如何にして青年は助けられしや。父と子は何れが神に試みられしや。其子に就いて感ずべき所は何ぞ。(アブラハム、イサクを捧ぐる物語)

三 アブラハムは如何にして其子イサクの妻を撰びしや。リベカは如何なる親切をアブラハムの僕になせしや。(井邊のリベカ)

四 家督の權を賣りしエサウの物語をなせ。身體は何のために大切なるものなりや。食物は何のために大切なるものなりや。心と肉體と何れが貴きや。肉體の慾を制するの利益如何。(エサウ家督の權を賣る)

第十九課 復習

五ヤコブが獨り野に宿て見たる麗はしき夢を語れ。天の梯子を天使の昇降せるを見しとは何の意味なりや。祈禱は如何なる場合に最も必要なりや。

祈りの神に聽かれし話を知らば之を語れ。(ヤコブの天の梯子の夢)

六自らの罪を赦さるゝには如何にすべきか。何故にわれらは人の罪を赦すべ

きや。争へる人と和睦する最も良き方法を語れ。復讐は何故になすべから

ざるか。エサウとヤコブの和睦せし物語をせよ。(エサウ、ヤコブの再會)

次に上記六箇の金言を一つづゝ擧げて之に適當せる物語を極めて簡単に生徒を

して語らしむべし。若し其生徒の答不備の點あらば他の生徒をして之を正さし

めよ。

尙又教師自ら上記の六金言に相當する物語を一つづゝ極めて簡単に語りて生徒

をして其の語に適當せる金言を答へしむべし。但し此の答は専ら生徒の記憶に

依頼するものなれば此の復習課の初めに於て數回繰り返して上記の六金言を唱

和し置くべし。金言の誦誦は其の語句の正確を第一の條件とせず、其意味の各

生徒に了解せらるゝを主眼とす。而して教師は其金言と教話との聯絡を保たしむるやう常に密接に之を生徒の腦裏に於て結ばしむるを努むべし。復習は此の意味に於て最も大切なる學課なりとす。

第十九課 復習

第二十課

〔課題〕 ヨセフ埃及に賣らる。

〔教材〕 創世記第三十五章及び第三十七章。

〔朗讀〕 創世記第卅七章十八節より二十八節まで。

〔金言〕 われ山にむかひて目をあぐ、わが扶助はいつこよりきたるや、わがたすけは天地を造り給へるエホバよりきたる (詩篇二二ノ一、二)

〔引照〕 創四二ノ二一、二二。申五ノ二九。詩七八ノ一八。一〇五ノ一七。使七ノ八一〇。

〔教訓〕 生徒をして天父の愛は常に變る事なく神を信する者の上により、神は如何なる時も之を守りて宜しきに導き給ふ事を知らしめ、如何なる困難辛苦も神を信する者に取りては悉く働きて其のために益をなすものなるを知らしむるを以て此の學課の目的とす。

〔教話〕 ヤコブには十二人の子供がありました。其中八人は先妻の子で跡の二人はリベカと云ふヤコブの最も愛した妻の子でありまして、其名を一人はヨセフと云ひ一人はベニヤミンと申しました。此ヨセフは性質のすなはな可愛らしい少年でありましたから父のヤコブは一番彼を愛しまして、兄弟どもの中で一番大事な子であることの印しの爲に様々の色で織つた大層奇麗な上衣を作つて之に着せて喜んで居りました。そこで十人の兄共は大層ヨセフを憎んで荒々しい言葉ばかり懸けて居りました。併しヨセフは快活な子ですから一向それに氣が附かないで何事でも兄弟に話しを致します。或時ヨセフは夢を見ました、それは兄弟と一緒に野に働いて居ますと、ヨセフのつかねた束は一つだけ立つて兄弟どもの束は皆んな之に御辭儀をした事を夢に見たのであります。ヨセフは又今一つの夢を見ました、それは日と月と十一の星が自分を拜んだと云ふのです。ヨセフは何心なく此の夢を兄弟たちに語りましたが、兄弟どもは非常に怒つて、此の弟を生かして置くに遂には自分たちが皆彼れに頭を下げる事になるか

ら今のうちに殺してしまはふと決心しました。或時兄弟共は父の家畜のために牧場を探さうとして遠方の野原に出掛けて行きましたが、ヨセフと小さいベニヤミンだけは父の家に居たのです。するとヤコブは息子共の安否を知りたいと思ふて、ヨセフに命じて兄弟の所に使ひに遣りました。ヨセフは獨りで遠い遠い所まで尋ねて行つて其處に兄弟共に遭つたのです。其時兄弟どもは遠方から綺麗な着物をきたヨセフの來るのを見附けて互に之を殺さうと相談しました。併し長男のルベンと云ふ人は外の兄弟よりも情深い質の人ですから彼等をいさめて自分で弟の血を流すよりは野原にある深い坑穴の中に落して置いて自然に死なせた方がよからうと申しましたから、皆も其氣になつてヨセフをつかまへて上衣を脱がせ坑穴の中に落してしまひました。彼等は穴の中で泣き叫ぶヨセフの聲を耳にもしないで飲み食ひをして居ましたが、丁度其の時エヂプトの隊商が澤山の駱駝に乗つて其處を通り懸かりました。それを見て兄弟の二人のユダと云ふのが外の者に申しますには、いつそヨセフを隊商に賣らうではない

か、唯だ殺すよりは餘程得ではないかと云ひますと、外の兄弟もそれは賛成だと云つて穴からヨセフを引き上げて銀二十枚で之をエヂプトの商人に賣つて遣りました。此時兄のルベンは外にいつて留守でしたが歸つて來て穴の中にヨセフの居ないのを見て大層憂ひました、それはルベンがヨセフを穴に落とせと云ふたのは後でそつとヨセフを助けて父の許に返さうと思つたのでした。然かし今となつては仕方がありません、此上は父に向つて申譯を作るより外にないのて兄弟共と申し合せて一匹の山羊を殺して其の血を以てヨセフの上衣を濡らし如何にもヨセフが野獸に喰はれたやうにして父の所に持つて行きました。父は之を見て「惡しき獸彼を食へりヨセフは必ず裂れしならん」と言つて非常に哭き悲しみました。斯う云ふ風にしてヨセフはまだ少年の時に兄弟に妬まれてエヂプトと云ふ遠い外國に奴隸として賣られて往つたのです。諸君想像して御覽なさい、ヨセフが無理に駱駝の背に乗せられて毎日々々遠國に連れて行かれる時どんなに心が淋しく悲しく情けなく思つたでしやう。併しヨセフは父のサロ

〔教話〕 ヨセフが兄弟達に憎まれてエチプトに賣られて行つたお話は前の日曜日に學びました。さてエチプトに参りますとヨセフは直ぐに奴隷賣買の市場に引き出されて、王様の近衛師團長ポテバルと云ふ軍人の家に賣られました。その頃は世界の國々に奴隷賣買と云ふ誠に残酷な事が行はれました。米國のやうな文明國でもつひ今から五十年前ほどまで此悪事が行はれましたが、アブラハム、リンコンと云ふ偉い大統領が南北戦争を起して之を廢止しました(教師は奴隷廢止の事を隨意に説き明すを要す)。ヨセフは愛らしい賢い少年でしたから大層ポテバル將軍の御氣に入りました。奴隷から取り上げられてポテバルの近侍の役をつとめるやうになりました。さうして段々信用が加はつて来て、遂には其家の凡ての財産を宰とるところの家令の役目に擧げられました。それと云ふのもヨセフが何時でも快活で不平を云はず、まめまめしく忠實に働きますので、神様の力がますます其上に與へられて、ヨセフのする事は何でも成功する様になつたからです。處が茲にポテバルの妻に悪人がありまして、種々手をつ

くして、ヨセフを悪事に誘ひ入れやうとしましたが、ヨセフは神を信する義しい青年ですから其の誘ひに負けませんでした。そこで其悪人が怒つてヨセフを將軍に讒言して無實の罪におとしられました。ヨセフは義しき事の爲めに責められたのです。どのやうに責められても苦しめられても悪事を行ひ罪を犯さなかつたのです。ヨセフは「我いかで此の大なる悪をなして神に罪を犯すをえんや」と申して誘惑に勝つたのであります。

ヨセフは獄に下りましたが、こゝでも常に快活にして能く仕事を致しましたので段々典獄の信用を得て、其の代理を務めて他の囚人を監督する役目を授けられました。快活にして困難に堪へる人は何時でも人の信用を得て立身出世するものであります。ところが茲に面白い事がおこりました。埃及の王様パロ王の宮内省の官吏で、一人は酒の事をつかさどり一人は内膳職といつて王様の食事のことを司る二人の者が、何かの罪を犯して此ヨセフのはいつてゐる監獄につなげられました。ヨセフは獄中にあつて此二人の官吏に事へる事になつたの

です。或時此二人は一夜の中に各自一ツツの夢を見ました。不思議な夢ですか。彼等は大層心配して顔色を悪くしてをります。ヨセフはそれを見てあなた方は何故今日はそんなに顔色がわるいのですかと尋ねました。彼等答へて申します。我等昨夜二人とも夢を見たが其意味が解らないので氣になつてたまらないのであると答へました。ヨセフは夢の意味を解くのは神様の智慧をかるより外はありませんから、一つ私に語つて御覽なさいと申しました。そこで酒人の長官が自分の夢を語りましたが、こういふ夢でありました。自分の目の前に一本の葡萄樹があつて、其樹に三つの枝があつて其枝に澤山の葡萄がなりました。自分は其葡萄をとり之をパロ王の杯の中にしぼり入れて王様にさしあげたと云ふのです。ヨセフが解明して申すには三つの枝とは三日の事です、今より三日の中にパロ王はあなたを赦して獄より出し前のやうに酒人の長官にされるであらう。次に膳夫の長と云ふ王様の料理番の長官は自分の夢を語りました。白いパンが三箇自分の頭の上にあつて王様の食物が種々其中に入れてあつたが鳥が來

て其筐の中から之を食つてしまつたと云ふ夢でありました。ヨセフは之を解明してお氣の毒ながら此夢は宜しくない、三の筐は矢張三日の事でパロは今日から三日以内にあなたの首を切つて獄門に曝し空の鳥が其肉を食ふであらうと申しました。果せるかな此等の預言が日々中りまして、丁度三日目にはパロ王の誕生日の祝でしたが、王は酒人の長を赦して元の職にかへし膳夫の長を殺して其首を木に懸けてしまひました。かやうにして酒人の長は獄より出ましたがヨセフとの約束を全く忘れてしまつて、ヨセフの事をパロに言上して獄から出るやうに盡力することを致しませんでした。ヨセフは獨り獄中にあつて之を怨まず静かに時の到るを待つてゐました。彼等は獄中にも神様の御導きと御護りを信じて何時までも快活にして感謝の日を送つてゐました。ヨセフは終に如何にして此獄より出だされたかは次の學課で學びませう。

第二十二課

〔課題〕 獄中より宮殿へ。

〔教材〕 創世記第四十一章一節より終迄。

〔朗讀〕 創世記第四十一章十七節より三十七節迄。

〔金言〕 エホバは汝を守りて諸々の禍害を免かれしめ又汝の靈魂を守りたまは
ん (詩二二一ノ七)

〔引照〕 詩九四ノ一七—二二。一〇五ノ一六—二二。一三八ノ一—八。雅一ノ
一七。羅八ノ二八。

〔教訓〕 天父は斷へず變らざる恵みの御手を以て其愛し給ふ子等を守り給へ
ば、我等は唯だ赤子が父母を信するよりも更に強き絶對の信託を以て天父の
守護に信頼し、神の爲し給ふ所は一見如何に耐へがたき苦痛に見ゆるども、
必ず後には益となることを信じて能く其困難に耐へるやう生徒の心を指導す

るを以て此學課の目的とす。別けてもヨセフが酒人の忘恩の罪をも咎めず、
靜かに忍耐して尙ほ二年間の歲月を獄中に過ごしたる事と、神は遂にヨセフ
を救ひてエヂプトの大權を其手に委ね給へる事を、最も明かに生徒の心に刻
みこむべきを努むべし。

〔教話〕 獄から出でた酒人はヨセフとの約束を全く忘れてしまつて、パロ王に
ヨセフの事を申し上げませんでしたからヨセフは其儘二年間も獄中に月日を送
つておりました。ヨセフは酒人を恨んだでせうか、もし神様を知らない人ならき
つと恨んだでせう。けれどもヨセフは何事も天の父なる神にお任せ申していま
したから此場合にも誰れをも恨まないでデット辛抱してゐることが出来たので
あります。さて二年の後に或時パロ王が不思議な夢を二ツも續けて見ました。
國中の賢い人や博士たちを呼んでその夢の意味を解かせやうとしましたが、誰
れ一人之を説き明す者はありませんで、王様は非常に氣にかけて晝夜心配して
をられました。其時例の酒人はフト思ひ出したのが二年前の自分の夢を解いて

くれたヨセフの事でありませう。ア、自分はすっかり忘れてゐた、濟まないことをしたと気が付きましたから、早速王様の處に参りましてヨセフの事を言上し、此へブル人の青年こそ王様の夢を解き明かすに相違ありませんと申し上げました。ソコデ王様は早速獄中のヨセフを御召出しになりました。ヨセフは乃ち久しぶりにひげをそり着物をきかへてバロの前に立ちました。其時彼れの年は三十歳でありました。支那の聖人が三十にして立つと云はれた其年であります。さてバロは早速自分の夢をヨセフに語り聞かせましたが之れはかういふ夢でありませう。バロが河の岸に立て見てをると七疋の美しく肥へた牝牛が河からのぼつてきて草を食べてゐました。すると又七疋の醜い瘦せた牛が河からのぼつて見てゐるまに彼の肥へた牛を食べてしまひました。さうして食べてしまつてからも瘦せた牛の腹は少しもふくれなで、元のまゝに矢張り瘦せこけてをりました。バロの今一つの夢はかうです、一つの莖に七つの肥えた穂が出でゝゐましたが、其後にしなびた七つの穂がでて來まして、忽ち肥へた穂を呑み盡した

と云ふのであります。ヨセフはバロに申しますには、七つの牛と七つの穂とはどちらも七年の事でありませう、七つの肥へた牛と肥へた穂とは七年間の大豊作をいふので、七つの瘦せた牛としなびた穂とは七年間の大饑饉をいふのであります。さうして七年間の饑饉は非常に烈しいので前の豊作時の刈入物は忽ちなくなつて、國中の食物が無いために人々餓死するやうになるのであります。これは天の神がバロの夢によつて豫じめ之を告げ給ふたのでありますから、バロは早速國中の一番賢い人を撰んで之にエヂプトの政治をお任せになり、國中に官吏をおいて豊年中に國內の收穫の五分の一を特別の租税として人民から取り立てしめ之を邑々の倉庫に貯藏せしめるやうになさせるとが肝要であります。(之は今日の荒備貯蓄法と云ふ者であります) 最も賢い政治の仕方でありませう。バロは之を聞いて非常に喜びまして早速其事に着手せられました。此國中の政事を掌る宰相にはヨセフの外に適當な人は居ないと申されて彼れをエヂプトの大宰相に任命せられました。さうしてバロはヨセフの指に御自分の指輪を

はめ、白布の衣を着せ黄金の鎖を頸にかけ、且つ自分の有つてゐる第二の車に乗らせて下んゐく。其前に呼ばせました。且又エチプトの最も貴い位の家娘アセナラと云ふ美人を與へて其妻となさしめました。ヨセフはこのやうにして一國の大宰相となり多勢の家來を従へて國內を巡回しまして七年の豊作の間に盛んに糧食をとり收めて之を邑々の倉庫に藏めました。貯蓄した穀物は眞砂のやうに澤山になつて後には其分量を數へることも出来ない程に夥しくなりました。かくして七年を経ると果せるかな大饑饉が初まりましたのでエチプト全國の民は食物盡きて王様に助けを願ふやうになりました。ヨセフは王様の命をうけて國中の倉を開いて穀物を賣り渡しました。此饑饉は外國にも同様に起りましたから外國からも段々穀物を買ひに參りました。ヨセフはエチプト一國のみならず全世界の恩人となつたのであります。之れがヨセフの獄中から宮殿まで云ふお話であります。

第二十三課

【課題】 ヨセフの兄弟エチプトに行く。

【教材】 創世記四十二章一節より四十五章八節迄。

【朗讀】 創世記四十五章一節より八節まで。

【金言】 是故に爾の仇もし飢えなば之に食はせ若し渴かば之に飲せよ如此するは熱き炭を彼れの首に積むなり。(羅十二—二〇)

【引照】 出一ノ一—五。使七ノ九—一四。

【教訓】 ヨセフの物語は、第一に神が義しき者を患難のうちにも顧み給ふて禍を轉じて福となすことを教へ、第二にヨセフが兄弟の舊惡を咎めて之が復讐を試むることなく、凡ての事を神の攝理の然らしむる所と信じて、寛容以て之を恕し、仁慈以て之を憐みたる、眞個クリスチャンの心事を教ふるもの也。故に此學課に於ては金言の示す如く、吾人は全く復讐の念を棄て、善を

以て惡に勝つ^かの行^なひをなすべきことを、ヨセフの實例^{じつれい}によりて生徒^{せいと}に知らしむるを以て目的^{めいてき}とす。

〔教話〕 饑饉^{きけん}がますます烈^{はげ}しくなつてきたのでヨセフの父や兄弟の住んでゐるカナンの地でも食物^{じよくぶつ}が無くなりました。ヤコブは埃及^{えがひ}に穀物^{こくぶつ}があることを聞いて其息子^{そのむすこ}等をしてエジプトに下り行き穀物^{こくぶつ}を買つて来るやうに命じました。兄弟共^{にいご}を皆なやりました。末の子ベニヤミン一人丈^{ひとりだけ}は自分の許^{もと}に留めておきました。それは末の子で一番可愛^{ばんがひ}いからと又ヨセフのやうに禍^{わざはひ}が其身^{そのみ}に起ることを恐れたからであります。ルベン、シメオン、ユダ其他^{そのほか}皆で十人の兄弟は澤山の驢馬^{ろば}をひいてエジプトに着きました。早速^{まっそく}其國の總督^{さうとく}の前^{まへ}に出て恭しく禮^{らい}を致しました。ヨセフは一目見ると直様^{すくさま}その兄弟共であることを知り、兄弟共は自分等が奴隸^{にれい}に賣つたヨセフがエジプトの總督^{さうとく}に成らうとは夢にも思ひません。少しも其ヨセフなることを知りません。ヨセフは思ふところがあつて態^{わざ}と彼等に敵^{てき}の間者^{かんじや}であらうといふ嫌疑^{けんぎ}をかけて三日の間牢屋^{らうや}の中におし

こめました。彼等は決して間者^{かんじや}杯^はではなく家には一人の老父^{らうふ}と一人の季^きの弟^{てい}が彼等^{かれら}を待つてゐるとなど、皆其素性^{みなそのすじやう}を打明^{うちあ}けて自分等の無實^{むじつ}の罪^{つみ}を申立てました。そこでヨセフは彼等の言ふ事^{こと}の眞實^{しんじつ}である證據^{しやうこ}に、其季弟^{そのすへのをてい}をエジプトに連れて来るやうに兄弟共^{にいご}に嚴命^{げんめい}しまして、其季弟^{そのすへのをてい}を連れて来る迄^{まで}は彼等の一人シメオンを人質^{ひとじち}にとつて置くと言ひ渡しました。彼等は非常に困りましたが仕方ありませんのでシメオンを一人殘しておいて、澤山の穀物^{こくぶつ}を積んで一先づ本國^{ほんこく}に歸りました。父のヤコブはシメオンが歸つて來ない事^{こと}とベニヤミンを連れて來いと云ふ總督^{さうとく}の命令^{めいれい}を聞いて非常に悲しみました。ヨセフは幼い時に野獸^{じゆう}に裂かれてしまひ、シメオンは人質となつてエジプトに囚はれてしまひ、今又季子^{またすへのこ}のベニヤミンを取られてしまふことになつては、自分は生きてゐる甲斐^{かひ}がないから、寧ろ此の白髮頭^{しらげあたま}は悲しんで墓^{はか}に下りゆく方がましであると哭き悲しみました。しかし饑饉^{きけん}が益々烈しくなつてきて又々食物^{じよくぶつ}が缺乏^{けつぱう}してききましたので、到頭^{たうとう}已むことを得ないで兄弟共^{にいご}にベニヤミンを連れてエジプトに旅立^{たびだ}た

しめました。ヨセフは自分の弟ベニヤミンを見て抱き付きたいほどに思ひましたが、出来る事ならベニヤミンだけを留めておいて他の兄弟共を父の許に歸さうと思ひましたから、彼等が穀物を澤山の驢馬に積んで歸路に就いた時に、密かに其家來に命じて自分の大切な銀の杯を、ベニヤミンの穀物の囊の中にかくしておきました。かれら城邑を出で、まだ程遠からぬうちに、「ヨセフの家來は追ひかけて来て、主人の銀の杯を盗んだ者は誰れである」と詰問しました。彼等は決して其様な事はする筈はないと言ひ張りましたが、論より證據銀の杯はベニヤミンの囊の中から出でましたから、彼等は非常に驚き引き遣してヨセフの前に平伏しました。ヨセフはわざと大に怒つて、ベニヤミンを奴隸にすると宣告しました。其時兄弟の一人エダがヨセフに向つて父のヤコフが如何にベニヤミンを愛してゐるか、もし此ベニヤミンを連れて歸らないならば老いたる父は悲みの餘り死ぬであらうと云ふ事を、涙を流し誠をこめて申上げまして、どうぞベニヤミンの代りに自分を奴隸にして下さいと嘆願致しました。ヨセフは到頭恐

び切れなくなりました。側に立つてゐる家來共を戸の外に出でしめて、聲をあげて泣きながら我はヨセフであるわが父はまだ達者であるかと申しました。兄弟共の驚きは如何計りであつたらう。彼等は恐れて近づくとが出来なかつたがヨセフは全く兄弟の罪を赦してやりました。彼等は互に頸を抱いて泣きました。ヨセフは兄弟等の悔いし優しき心を見て全く彼等が自分をエヂプトに賣つた罪を免してやりました。ヨセフは神様の心を以て人の罪をゆるしてやつたのであります。

第二十四課

〔課題〕 イスラエルの全家エジプトに移る。

〔教材〕 創世記四十五章より五十章終迄。

〔朗讀〕 創世記四十五章九節より十三節まで、同四十七章七節より十二節まで。

〔金言〕 エホバは今よりとこしえに至るまで汝の出づると入るとを守り給はん。(詩二二二ノ八)

〔引照〕 出一三ノ一九。使七ノ一四―一六。希一一ノ二一、二二。

〔教訓〕 神は常に正義の人を守り、禍の中より彼を救ひ彼自らの幸福を興へ給ふのみならず、及ぼして其一家眷族にまで福祉を興へ給ふ事をヨセフの生涯の結末によりて生徒に深き印象を興へしめ、以て神に對する信頼愛慕の念を深からしめ、我も亦ヨセフの如き神の愛兒眞の孝子たらんと志を抱かしむるを以て此學課の目的とす。

〔教話〕 エジプトの大宰相がカナンの國から來た十一人のみすばらしき牧羊者に向つて、「私はお前達の兄弟ヨセフです」と名乗つた時の光景は、諸君ごんなであつたと想像しますか。十一人の兄弟は餘りに驚いて中々信じませなんだが、やがて愈々本當と分つたら嬉しさ餘つて恐れも驚きも何處かに飛んでしまつて、思はず狂喜の叫びを發しました。此場合皆の心は直ぐに誰の事を思ひ出したでありませう。云ふまでもなくカナンに獨り残つて居る老いたる父ヤコブの身の上です。分けてもヨセフは一刻も早く父のヤコブに逢いたくてたまりません。勿論自分からカナンに行つて父に逢ふことはたやすい事ですが、ヨセフはまだ五年間饑饉が續く事を知つてゐますから、父や兄弟の幸福のために早速彼等をエジプトに呼びよせる事にしました。ソコで兄弟に向つて「急いでカナンに歸つてお父様を此國にお連れ申して下さい、夫れからお前たちの妻子や家畜も皆一緒に連れてお出でなさい、私は王様に願つてエセンの地にお前たちを住ませて一生安樂に暮す様にします。只一刻も早くお父様に私のエジプトに於け

る榮譽を語つて直ぐに茲に来るやうにして下さい」と申しました。やがて此事がパロ王の耳にはいりますと、王様も大層喜んでヨセフに命じて云はるゝには「澤山の荷車をカナンの地に送るがよい。エジプト中の嘉物は皆汝の物であるから何も惜まず持せてやれ。お前の父と兄弟等が未永く此國に来て住む事はお前の喜びばかりでなく、朕の喜びである」と仰せられました。ヨセフの兄弟は澤山の驢馬と車と糧食とを與へられて早速カナンに歸り行きました。ヨセフに「ヨセフはまだ生きてをります。エジプトの大宰相です、私共はあなたを迎へに参りました」と云ひました。ヤコブは餘りの事に信じませんでした。澤山の荷車を見て初めてさう信じました。聖書に「イスラエル乃ち曰ふ、足れり我子ヨセフなを生き居る、我死なざる前に行きて之を見ん」と書いてあります。(イスラエルはヤコブの別の名前。復たユダヤの國もヤコブの子孫から出たのですからイスラエルと呼ぶやうになりました。)

切てヤコブは息子等の妻子都合七十人を引連れてエジプトに参りましたが、

セフは大宰相の位に相當なる有らゆる行列を以て彼等を迎へました。ヤコブとヨセフは互に首を抱き首をかへて久しく泣くと聖書に書いてあります。やがてヨセフは兄弟の中の五人を撰んでパロ王にお目見えを致させました。パロ王は彼等をエジプトの牧畜を司る役人に取立てました。又父のヤコブをもパロ王の前に立たせましたが、其時ヤコブの歳は百三十歳でありました。夫れからヤコブはエジプトの國に十七年生き永らへましたが、其間大宰相の父としてパロ王初めエジプト中の尊敬を受けて百四十七の歳に安らかに眠りました。ヨセフは父の遺言によつて彼をカナンの地に葬りました。諸君子供が親に對する最大の孝行は何でありませう。其家を興して父の名譽を揚げる事が第一の孝行です。ヨセフは神の忠義な僕であると同時に父に孝行な息子でありました。信仰と善い行ひとは何時もはなれないものであります。

第二十五課

〔課題〕 復習。

〔教材〕 ヨセフ一代記。

〔朗讀〕 第二十一課より第二十五課までの六學課の金言を教師唱へ生徒をして和せしむること左の如し。

(廿一) われ山に向ひて目をあぐ、我扶助は何處より來るや、わが助けは天地を造り給へるエホバより來る。

(廿二) 義しき事のために責めらるゝものは福なり、其人は神の子と稱へらる可ければ也。

(廿三) エホバは汝を守りて諸々の禍害を免れしめ又汝の靈魂を守りたまはん。

(廿四) 是故に汝の仇もし飢えなば之に食はせ、若し渴かば之に飲ませよ、如

此するは熱き炭を彼れの首に積むなり。

(廿五) エホバは今より永遠に至るまで汝の出づるところを守り給はん。

〔教訓〕 左の問答を以てヨセフの一代記を生徒の記憶に新たにするを努めよ。

蓋しヨセフの一生ほど神の攝理の驚くべき作用を知らしむる物語は稀なり、故に此復習に於て凡ての問答の中心點となるべき教訓は、ヨセフ及其一家の運命を支配し給へる神の大能の御手の如何に恩愛に富めるかを悟らしむるに在り。

〔教話〕

(一) ヨセフの兄弟は何人ありしや、其中の誰れがヨセフと同じ母より生れしや。

(二) ヨセフは何故に他の兄弟たちに憎まれしや。

(三) ヨセフは何時如何にしてエジプトに賣りやられしや。

(四) ヨセフが駱駝の背に無理にのせられて見しこともなき遠き埃及に奴隸となりて連れ行かれし時の彼れの中心は如何なる金言の中に最もよく言ひ現はる

れありや。(廿一課金言)

(五)ヨセフは埃及に行きて奴隷として何人に買はれたりや、何故に彼は其家より獄に投せられたりや。

(六)ヨセフ物語の中にて如何なる部分が「義しき事の爲に責めらるゝ者は福ひなり」と云ふ金言に適合するや其部分を語れ。

(七)ヨセフは如何にして免されて獄より出づるを得しや。酒人と膳夫の夢判断の物語をなせ。パロ王の夢は如何なるものなりしや。

(八)ヨセフは如何にして埃及の大宰相となりしや彼は如何にして大饑饉の備へをなせしや。

(九)ヨセフの兄弟共が埃及に穀物を買ひに來りし時、弟のベニヤミンのみ父の許にありて來らざりければ、ヨセフは此弟を連れ來らしむる爲め如何なる手段を取りしや。(シメオン人質に取られし物語をなさしむ)

(十)ベニヤミンを連れて再び兄弟等が埃及に來りし時、ヨセフは此愛する弟

のみを埃及に留め置かんとして如何なる手段を取りしや。而して終に包み切れずして自ら名乗り出せるは何故なりしか。(銀杯の事とユダの歎願)

(十一)ヤコブの全家七十人と其家畜とが埃及に移住せし物語を、迎への荷車、ヤコブの驚喜、到着とヨセフの歓迎、兄弟及父のパロ王拜謁、ヤコブの死と葬式等の諸項に分けて語れ。

(十二)ヨセフの行爲の中最も多く感服せる點を語れ。(生徒をして思ひくりに所恩を語らしめ、就中ポテバルの妻の悪事に誘はれざりし事、酒人の忘恩を怨まざりし事、兄弟等の己を賣りし大罪を赦して復讐を試みざりし事、大功業を立て、孝道の至極を盡せる事等を高調して生徒に感動を與ふべし)

右にて一代記の問答を終りたる時、最後に凡て正反對の想像を試み「若しも何せざりしならば」と云ふ假定詞を以て左の諸點を考へしむべし。

- 一、ヨセフ若し埃及に賣られざりしならば、
- 二、ポテバルに事へて無實の罪の爲めに獄に入らざりしならば、

- 三、親切に酒人等の夢を判じやらざりせば、
 - 四、大英断を以て饑饉の備へをなさざりせば、
 - 五、大愛を以て兄弟の罪を赦さざりせば、
- 凡て此等の假定にして成立せばヨセフ一身の幸福は勿論ヤコブ全家の繁榮は到底覺束なかりしなるべく、従つてイスラエル一國の運命は憐むべきものなりしならん。之によりてヨセフ一代記の中にある神の舞臺の明白なる事實を生徒に會得せしむるを得べし。

第二十六課

【課題】 モーセの幼時。

【教材】 出埃及記第一章一節より第二章十五節迄。

【朗讀】 出埃及記一ノ八一―二二。二ノ五一―一〇。

【金言】 其子や、成長して精神強健に智慧みち神の恩寵の上に臨れり（路二ノ四〇）

【引照】 使七ノ一七―二九。希二ノ二三―二七。

【教訓】 神の恩愛は凡ての人類の上にゆたかなれども、別けても他日成長して神の御事業を成就すべき幼児の身の上であり、常に危難の中より救ひ出して安全に守らせ給ふ。されば吾等が生れてより今日まで斯く安全に成長するを得たるは必ず神の深き思召の此身の上にあればなり。モーセ幼年の物語の教訓は生徒をしてかゝる自重心と感謝の念とを起さしむるに在り。

〔教話〕 私共は前の日曜日までの半年間で舊約の第一卷創世紀の物語を學びました。即ち天地開闢の物語よりイスラエルの全家がエジプトに移つたヨセフ物語迄を勉強したのです。偕て今日の日曜からは舊約の第二卷出埃及記の物語を學ぶのです。出埃及記とはエジプトを出づる記と云ふのでありますが、誰れが埃及を出でたのかと云へば、それはヨセフの招きに應じてカナンの地から埃及の地に移住したイスラエルの全家の子孫が段々に殖えまして多數の國民となつた時、モーセと云ふ偉い人物があつて此國民を引き連れて故郷のカナンに還る爲めに埃及の地を出でたと云ふ物語であります。それで今日は其モーセと云ふ大人物の若い時の話を致しませう。

埃及に移つたイスラエルの全家は大宰相のヨセフの親兄弟である爲に初めは大層優待されて暫らくの間は極めて幸福な日を送つてゐましたが、段々其子孫が殖えまして終には埃及の人民よりも人數が多くなる程になりましたので、埃及人は非常にイスラエル人を恐れる様になりました。それは謀叛を起して此國

を亡ぼしはせまいかと云ふ疑ひから大層怖がつたのであります。終にヨセフの事を知らない王様が位に即さましてから、其王様はイスラエル人を弱くする爲めに色々無理な難儀の仕事をして之に命じまして出来るだけ苦しめましたが少しも其人數が減りませんので終には悪計を運らしまして、イスラエルの家に行く産婆に言ひつけて男の子が生れた時に之を其場で殺してしまへと申しました。産婆は神様を恐れて斯う云ふ悪い命令に従ひませんでしたから、今度は王様が國中に命令を發してイスラエルの家に生れた凡ての男の子は之を河に流して仕舞へと命じました。何と亂暴な命令ではありませんか。イスラエル人の憤慨はどんなでありましたらうか。其母達の歎きは如何ばかりでありましたらうか。

其時イスラエルのレビの家に一人の男の子が生まれました。其子は生れて非常に美しい子でありましたから、いくら王様の命令でも河に棄てることは出来ませんでした。三月の間密かに自分の家に育て、おきました。遂に匿しきれなくなりましたから、蔑で作つた丈夫な箱舟にチャンや樹脂を塗つて水の道入らない

やうにして、其中に此の男の子を入れて河邊の葦の中にかくして置きました。ところが丁度パロ王のお姫様が冷水浴をする爲めに多勢の侍女を連れて河のはどりにくだられました。葦の中に綺麗な箱舟が繋いであるのを見付けて不思議に思ふて蓋をあけて見ました。中には可愛らしい綺麗な男の子がをります。そして嬰兒は聲をあげて泣きだしました。パロの娘が之を見て憐れに思ひ之れは多分へブル人の子であらうと申しました。へブル人とはイスラエル人の事です。其時傍に立つてをつた或婦がパロの娘に向つて此子をお育てになるならば適當な乳母を御世話致しますと申しましたが、それを頼むと云ふ仰せで其婦が驅けていつて直ちに其子の母を乳母として連れて参りました。此婦は其母の姉でありまして子の爲めには伯母様に當る人であります。パロの娘は此乳母に命じて此子を育てしめ少しく成長してから之を宮中に引き取つてパロの娘の子として養育せられました。其子の名前をモーセと付けました。モーセとは援出と云ふ意味で水の中から援け出したから左様に名けたのであります。かやうに

してモーセはエジプトの宮中に育つてあらゆる高等の教育を受けて智慧も齡もいや増さつてきました。彼れは段々成人となりました時、自分の國人の苦しめられてゐるのを見て殘念で堪らなくなりました。一日一人の同胞がエジプト人の一人によつてひどく虐待されてゐるのを見て、誰も見てゐないのを幸ひと其エジプト人を擊殺して沙の中に其死體を埋めて知らぬ顔をしてゐました。所が遂に此事が発覺しまして、パロ王はモーセを殺さうとしましたから、モーセはすばやく逃げのびましてミデアンの地に匿れてそこに住んでをりました。モーセはイスラエルの同胞を何とかして助けたいと思ひましたが未だ其時機が來なかつたのであります。

日曜學校少年少女科教案 上卷終

明治四十三年十二月五日印刷
明治四十三年十二月八日發行

(定價 金二十錢)

著者 加藤直士

發行者 福永文之助

印刷者 村岡平吉

印刷所 福音印刷合資會社

發行所

(振替東京五五三
電話新橋一五八七)

警 醒 社 書 店

大賣捌所

警 醒 社 書 店

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地
東京市本郷區春木町二丁目廿三番地



同志社長原田助序
神戸頌榮幼稚園長ハウ譯

フレエベル氏人之教育

フレエベル肖像入
フレエベル夫人書簡

クロス上製菊判 定價金壹圓五拾錢 郵稅拾貳錢

全女史譯 ラモラウ原著

開發的生活

四六判 定價 並 製金五拾錢 郵稅ナシ

近世に於ける教育學の革命者はフレエベルなり、フレエベルの唱へたるは開發的教育なり。ハウ女史は夙にフレエベルに私淑し、其開發主義を以て躬ら育英の任に當らるゝの人、此の二書の普通の譯書に非ざるや知るべし。教育に従事するもの、就中宗教々育に意ある者は先づ此二書を繙かざるべからず。

田村直臣著

廿世紀日曜學校

クロス上製 定價金七拾錢 郵稅六錢

田村先生は日本に於ける模範的日曜學校と稱せらるゝ、數寄屋橋教會の日曜學校の校長なり。兒童心理學上の豊富なる智識と、多年の自家の經驗とを併せて、本書を著する。日曜學校の管理者教師は勿論、子女に宗教々育を施さんとする人の必讀書。

ジュボイス原著 大宮季貞 鈴木浩二合譯

教授の秘訣

四六判 定價金參拾錢 郵稅四錢

小兒に宗教々育を施すの困難は日曜學校教師及父兄の共に感せらるゝ處也。本書は其の精神及方法を詳にし、有力なる教授者の助力者たらむとす。

藤川 淡水 著

ブバイ御伽噺

四六判(表装美麗)
定價金 五拾錢
郵税 六錢

本書は五十の御伽噺を聖書の教訓の精神に基きて作りたるもの、其物語の人物は凡て小兒にして、小兒をして同情同感を起こさしむるに適す。且各物語の終りには聖句を以て之を結び、恰もイソップ物語の格言の如くになせり。本書は出版以來頗好評にして既に再版を賣盡さんとす。

大宮 季 貞 編

犬のの話

表紙美麗
定價金 貳拾錢
郵税 二錢

西洋に行はる、犬に關する話を蒐集し、之を我が小兒に與へて其徳性を養成するの料となし、併せて動物哀憐の習慣を作らしめんとす。勇敢なる、忠義なる、伶俐なる、十八個の犬の話。

ブライウン 編

日曜學校 用唱歌 ゆきびら

譜無シ 金拾錢
譜付 金五拾錢
郵税 八錢

湯谷 磋一 郎 作歌

日曜唱歌

定價金 拾貳錢
郵税 貳錢

各派 讚美歌 第一編 第二編 各種

一手販賣

東京市京橋區尾張町 二丁目十五番地
東京市本郷區春木町 二丁目廿三番地

警 醒 社 書 店
警 醒 社 書 店
(振替東京五五三 電話新橋一五八七)

新島善直編

クリスマス物語

定價 金四拾錢
郵税 六錢

クリスマスに際して、お話、對話、誦誦の材料の少き事は、日曜學校教師の常に嘆ずる處なり。本書は著者が八年間北海道の札幌教會に於て毎年試演せられたるを蒐集したるもの、其のステエヂに適するものたるや論なし。

毛利 薫 譯

終山のクリスマス

定價 金貳拾錢
郵税 四錢

米國南北戰爭の間に、南軍一將校の家庭に起りたる可憐なる小話なり。小兒をして讀ましむるも可、之に聞かするも可、兎も角新しき味を與ふる御伽噺なり。

264
562

